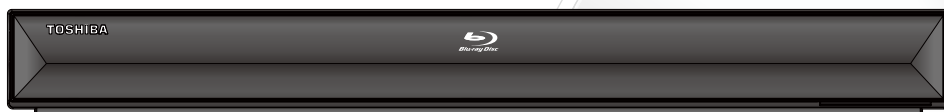
TOSHIBA

東芝ブルーレイディスクプレーヤー
形名 SD-BD1K

取扱説明書

ご使用になる前に

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
- 表示と意味は次のようになっています。

■ 表示の説明

表示	表示の意味
⚠ 警告	″取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*１）を負うことが想定されること″を示します。
⚠ 注意	″取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*２）を負うことが想定されるか、または物的損害（*３）の発生が想定されること″を示します。

*１：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
*２：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
*３：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
禁　止	″🚫″は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
指　示	″❗″は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
注　意	″⚠″は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

⚠ 警告

異常や故障のとき

煙が出ていたり、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください。

落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に点検・修理をご依頼ください。

電源コードが傷んだり、電源プラグが発熱したときは、電源を切り、電源プラグが冷えたのを確認しコンセントから抜く
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

⚠警告

設置するとき

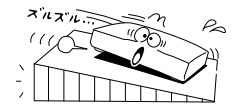
屋外や浴室など、水のかかる恐れのある場所には置かない
火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止

電源プラグは交流100Vのコンセントに根元まで確実に差し込む
- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

指　示

ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かない
本機が落ちて、けがの原因となります。

禁　止

上に物を置かない
- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

上載せ禁止

使用するとき

修理・改造・分解はしない
内部には電圧の高い部分があり火災・感電の原因となります。
点検・調整・修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

ディスクトレイなどから異物を入れない
金属類や紙などの燃えやすい物が内部に入った場合、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

異物挿入禁止

雷が鳴りだしたら、本機に触れない
感電の原因となります。

接触禁止

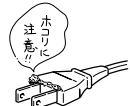
電源コードは
- **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりしない**
- **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
- **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

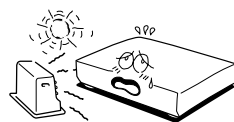
禁　止

お手入れについて

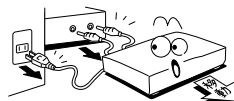
時々電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取り付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する
電源プラグの絶縁低下により、感電の原因となります。

指　示

⚠注意

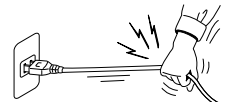
設置するとき

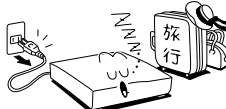
温度の高い場所に置かない
直射日光の当たる場所・閉め切った自動車内・ストーブのそばなどに置くと、発熱や感電の原因となることがあります。また、変形、破損、その他部品の劣化や破損によって感電の原因となることがあります。

湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない
加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと発熱や感電の原因となることがあります。

風通しの悪い場所に置かない
内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。
- 壁に押しつけないでください。
- 押し入れや本箱など風通しの悪い場所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

移動させる場合は、電源プラグ・外部との接続線を外す
電源プラグを抜かずに運ぶと、電源コードが傷つき火災・感電の原因となることや、接続線などを外さずに運ぶと、本機が転倒し、けがの原因となることがあります。

高い場所に設置しない
本機が落下した場合に、けがの原因となるため、高い場所への設置はしないでください。

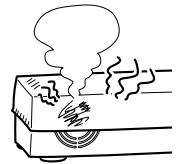
使用するとき

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない
電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く
万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

ディスクトレイの挿入口に、手を入れない
指をはさみ、けがの原因となることがあります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

⚠注意

使用するとき

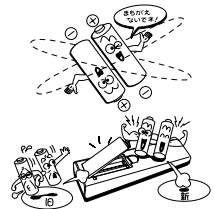
背面や内部冷却用ファンおよび通風孔をふさがない
内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。これら通風孔とラックとの間は10cm以上離してください。

ヘッドホンやイヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない
ディスクは本機内で高速回転しますので、飛び散ってけがや故障の原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
電源を入れる前には、接続しているアンプなどの音量を最小にしておいてください。
突然大きな音が出て聴覚障害などの原因となることがあります。

テレビやオーディオシステムの音量を上げすぎない
音量を上げすぎると、耳への刺激で聴力に悪い影響を与えたり、ご近所の迷惑になります。特に夜間は、日中よりも音量を下げるようにしてください。

リモコンに使用している乾電池は、
- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性[(+)と(−)]を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れたりしない**
- **表示されている[使用推奨期限]の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

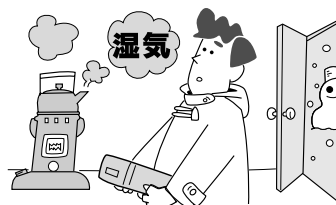
これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。
目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具に付着した場合は、液に直接触れないでふき取ってください。

使用上のお願い

結露(つゆつき)について

■ **結露ってどうなるの?**
暖房した部屋の窓ガラスに水滴がつくことがあります。
これを**結露(つゆつき)**とよびます。
本機を…
- 寒いところから暖かいところへ急に移動させたとき。
- 暖房を始めたばかりの部屋で操作するとき。
- 湿気の多いところで使うとき。
- エアコンのそばなど、直接冷風の当たる場所で使うとき。

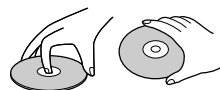
など、内部で**結露**が起こったり、内部のレンズにつゆ(水滴)がつき、正しく動作しないことがあります。

■ **よく乾燥させてからお使いください。**
このようなときは、**電源**を**「入」**にしたまま、**しばらく乾燥のため放置して**、湿気がなくなるまで操作しないでください。乾燥すると、正常に動作するようになります。

■ **結露が起こりそうなときは、よく乾燥させてからお使いください。**
本機を移動させたあとなどはすぐに使用せず、**電源**を**「入」**にしたまま、**しばらく乾燥のため放置して**、湿気がなくなるまで操作しないでください。

ディスクの取り扱い

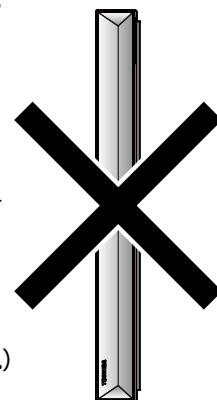
■ 再生面に触れないようにディスクの端を持ってください。
■ 紙やシールなどを貼ったり、傷をつけたりしないでください。
■ 直射日光の当たる場所や熱器具のそばなど高温になる場所には置かない。
■ 使用後は、**所定のケースに入れて、保管してください。**ケースにいれずに重ねたり、ななめに立てかけて置くとソリの原因になります。

■ 指紋やほこりによるディスクの汚れは、音質や画質低下の原因となります。いつもきれいに清掃しておきましょう。
■ お手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外のほうへ軽くふきます。汚れがひどいときは、柔らかい布を水に浸し、よくしぼってからふき、乾いた布で水気をふき取ってください。

■ ベンジン、レコードクリーナー、静電気防止剤などは、逆にディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
■ 本機で使用できるディスクについては21ページをご覧ください。

ご注意

■ **本機の近くで携帯電話およびPHSなどを使用すると、映像または、テレビ画面や音声にノイズが入ることがあります。この現象は本機の故障ではありません。携帯電話およびPHSなどを使用するときは、本機から離れた場所でご使用ください。**
■ **次のような場合に、映像や音声に悪い影響を与えることがあります。万一このような状況が生じた場合は、テレビと本機を離してください。**
- 本機の上に、テレビを直接置いたとき。
- テレビの上に、本機を直接置いたとき。

本機の置き場所や取り扱い

- ■ **高温状態をさけてください。**
  持ち運びの際、窓を閉めきった自動車の中など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
- ■ 本体後面にあるファンや通風孔をふさがないでください。ファンや通風孔をふさぐと放熱の妨げとなり、故障の原因となります。
- ■ 本機をご使用中、使用環境によっては本体やキャビネットの温度が若干高くなりますが、故障ではありません。安心してご使用ください。
- ■ **砂に注意しましょう。**
  砂浜や砂ぼこりの多いところで使用する場合は、砂などが内部に入らないようにしてください。
- ■ 携帯電話、トランシーバーなどの強い電波を発生するものの近くに置かないでください。
  電波の影響で本機が動かなくなります。
- ■ テレビの近くに置くと、映像や音声に悪い影響を与えることがあります。このような場合は、テレビから離してください。
- ■ ご使用にならないときは、必ず**[停止 ■]**ボタンを押してからディスクを取り出し、電源を切ってください。
- ■ 長期間使用しないと機能に支障をきたす場合があります。ときどき電源を入れて作動させてください。
- ■ **国外では使えません。**
  本機は日本国内用に設計されています。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
  （This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.）
- ■ **タテ置きではご使用できません。**

レーザーピックアップについて

- ■ この取扱説明書の該当部分と「故障かな？と思ったときは」をお読みになり、操作を行っても本機が正常に動作しない場合は、レーザーピックアップが汚れている可能性があります。修理については、お買い上げの販売店または東芝DVDインフォメーションセンターにご相談ください。（☞ 裏表紙）

本機やリモコンのお手入れ

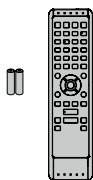
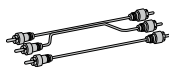
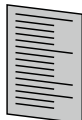
- ■ **ベンジン、シンナーなどでふかないでください。**
  キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。アルコール/ベンジン/シンナーなどでふいたりすると変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。
- ■ キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤に浸した布をよく絞ってふき取り、渇いた布で仕上げてください。
- ■ 化学ぞうきんは使わないでください。
- ■ キャビネットに殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにすると、変質したり塗装がはげるなどの原因となります。
- ■ **お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

リモコンの取り扱い

- ■ **乾電池の交換時期**
  リモコンで操作できる距離が短くなってきた場合は、乾電池が消耗しています。すべて同時に新品に交換し、新旧をまぜて使用することは避けてください。付属の乾電池は動作確認用のため、通常より寿命が短い場合があります。
- ■ **リモコン保管時のご注意**
  長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り出してから保管してください。

修理について

- ■ **本機が動作しなくなった場合は、ご自分で分解や修理をしないでください。**
  電源プラグを抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。

付属品について

- リモコン
- 単３乾電池（1.5V ２個）
- 映像/音声ケーブル

- 取扱説明書（本書）
- クイックガイド

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書では、それぞれの機能に対応しているメディアを下記のアイコンで表記しています。アイコンは、各説明項目の見出し下部に記載しています。

アイコン	説明
	BDビデオディスク、またはBDMVモードで記録されたBD-RE（ver.2.1）/ BD-R（ver.1.1/1.2/1.3）で楽しめる機能を表します。
BD BDAVモード	BDAVモードで記録されたBD-RE（ver.2.1）/ BD-R（ver.1.1/1.2/1.3）で楽しめる機能を表します。
	DVDビデオディスク、またはビデオモードで記録されたDVD-RW/-Rで楽しめる機能を表します。
	VRモードで記録されたDVD-RW/-Rで楽しめる機能を表します。
	AVCRECモードで記録されたDVD-RW/-Rで楽しめる機能を表します。
	音楽用CDまたはDTS-CDで楽しめる機能を表します。
AVCHD	AVCHDファイルが記録されたDVD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。
MP3	MP3ファイルが記録されたBD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。
WMA	WMAファイルが記録されたBD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。
JPEG	JPEGファイルが記録されたBD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RまたはSDカードで楽しめる機能を表します。

※アイコンの記載がない項目については、☞ 21-22ページを参照してください。

本機で使用している登録商標について

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国々におけるHDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS は、DTS, Inc.の登録商標です。
DTS-HD Master Audio| Essential は、DTS, Inc.の商標です。
Manufactured under license under U.S. Patent #'s: 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,392,195; 7,272,567; 7,333,929; 7,212,872 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS is a registered trademark and the DTS logos, Symbol, DTS-HD and DTS-HD Master Audio | Essential are trademarks of DTS, Inc. ©1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.

"x.v.Color"および"x.v.Color"ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

Blu-ray Disc及びロゴは商標です。

DVDロゴはDVDフォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。

"AVCHD"および"AVCHD"ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

"AVCREC"および"AVCREC"ロゴは、Blu-ray Disc Associationの商標です。

BONUS VIEW™

"BONUSVIEW"はBlu-ray Disc Association の商標です。

"BD-LIVE" ロゴはBlu-ray Disc Associationの商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems,Inc.の商標または登録商標です。

Windows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

"KODAK"はイーストマン・コダック社の登録商標です。

もくじ

ご使用になる前に

接続する

再生する

設定

その他

本機の特徴

メディア再生

対応メディア
DVD約５枚分の大容量記録媒体、ブルーレイディスク（BD）の再生をお楽しみいただけます。BDに加え、DVDや音楽用CD、SDカードの再生もお楽しみいただけます。

SDカード
AVCHD、MP3、Windows Media™AudioやJPEGファイルをSDカードに記録し、再生することができます。
また、BD-Live機能やBONUSVIEW機能に対応したBDビデオの再生では、PIPや字幕など、追加コンテンツをSDカードに保存すれば、より多くの再生機能を楽しむことができます。

AVCHD
ハイビジョン映像をビデオカメラの撮影で記録できる新フォーマット規格「AVCHD」の再生が可能です。
AVCHDは、DVD-RW/-RまたはSDカードに記録したものが再生できます。

BDアプリケーション機能

BD-J
Javaアプリケーション（BD-J）を含むBDビデオでは、本編の視聴に加え、ゲームや対話型コンテンツ等、インタラクティブな機能を楽しむことができます。

PIP：ピクチャー・イン・ピクチャー（BONUSVIEW）
PIP機能に対応したBDビデオの再生では、セカンダリー映像を含むシーンで**[PIP]**を押すと、セカンダリー映像を別画面で表示させることができます。

BD-Live
本機は、BD-Live（BD-ROMプロファイル2.0）に対応しています。BD-Live機能を利用する際は、本機をインターネットに接続する必要があります。（BD-Live機能で利用できるコンテンツは、ディスクによって異なります。）

ポップアップメニュー
ポップアップメニューが含まれたBDディスクでは、再生中に**[ポップメニュー/メニュー]**を押すと再生画面上で様々な操作ができるポップアップメニューが表示されます。（ポップアップメニューの内容は、ディスクによって異なります。）

その他の再生機能

フルHD対応
本機は、1080pの解像度までサポートしています。フルHD映像を楽しむにはフルHD対応テレビが必要です。

1080pアップスケーリング
DVDの再生では、アップコンバート機能によって、標準解像度の画像を最大1080pまでアップスケール処理できる高詳細化を実現しました。

マルチチャンネルサラウンド音声
本機では、より現実に近い音声を楽しめるマルチチャンネルサラウンド音声出力に対応しています。

x.v.Color
”x.v.Color”で撮影した映像を再生することができます。”x.v.Color”の色空間、より天然に近い広色域の映像をお楽しみいただくためには、HDMIケーブル（Ver. 1.3）で”x.v.Color”対応のテレビに接続し、設定を行う必要があります。（詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。）

早見・早聞き再生
音声記録方式がドルビーデジタルのディスクでは、約1.3倍速での早見・早聞き再生が可能です。

HDMIについて

お持ちのテレビがフルHD対応の場合、ハイビジョン高画質映像をお楽しみいただくには、HDMI端子で接続いただくことをおすすめします。HDMI端子は映像と音声の両方を兼ねており、１本のケーブルで簡単に接続ができるので、お使いのアンプ等のオーディオシステムも簡単に接続することができます。（HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI®）の表示があるケーブルをお使いください。）

また、HDMI端子を使用して接続した場合、以下の機能をお使いいただけます。

HDMIディープカラー
お使いのテレビがHDMIディープカラーに対応している場合、再生映像の色深度（ディープカラー）を拡張して出力し、より自然に近い色を再現することができます。
設定方法については、”HDMIディープカラー” （☞ 43ページ）をご覧ください。

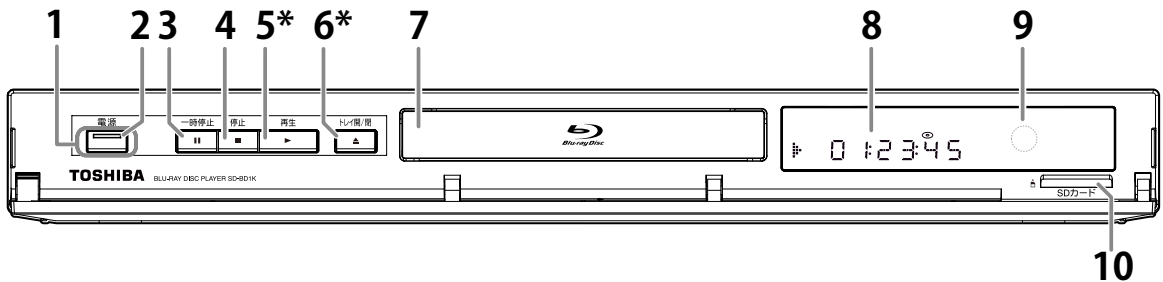
HDMI機器制御（レグザリンク機能）
当社製REGZAシリーズ（テレビ）と本機をHDMI端子を使ってつなぐと、本機の動作とテレビの動作を連動して行える「レグザリンク機能」が使えます。（レグザリンク対応品に限ります。）レグザリンクについて詳しくは、”HDMI機器制御（レグザリンク機能について）” （☞ 53ページ）をご覧ください。

1080プログレッシブ24フレーム
お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応している場合、BDでは、1080プログレッシブ24フレームとしてフィルム素材（１秒間に24フレームで撮影）を記録した高品質でより自然に近い映像を楽しむことができます。1080プログレッシブ24フレームをお楽しみいただくには、”HDMI解像度設定”を”1080p24”または”自動”に設定してください。（☞ 43ページ）

著作権保護システムについて

本機は、著作権保護技術であるHDCPを採用しています。接続できる機器は、HDCP機能に対応したものに限ります。
HDCP機能に対応していない機器との接続性は保証していません。接続する機器の取扱説明書も合わせてご確認ください。

各部の名前とはたらき

前面

* の記されているボタンを押しても、電源を入れることができます。

1 電源ボタン
- 電源を「入」、または本機をスタンバイ状態にします。（本機の電源を完全に切るには、電源コードを抜いてください。）

2 電源ランプ

3 一時停止 ❚❚ボタン

4 停止 ■ボタン

5 再生 ▶ ボタン*

6 トレイ開/閉 ⏏ ボタン*

7 ディスクトレイ

8 表示部
- "本体表示部"を参照してください。（☞ 15ページ）

9 リモコン受光部

10 SDカードスロット

後面

1 LAN端子
- ネットワーク機器をLANケーブルで接続するときに使用します。

2 HDMI出力端子
- HDMI入力端子付きテレビをHDMIケーブルで接続します。

3 音声出力端子
- テレビやアナログオーディオ機器等を音声ケーブルで接続します。

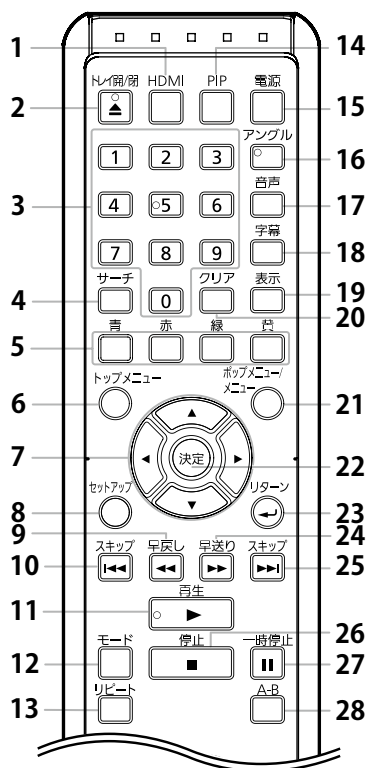
4 コンポーネント映像出力端子
- D映像入力端子付きテレビをコンポーネント⇔D端子変換ケーブルで接続します。

5 電源コード
- 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 完全に本体の電源を切るには、電源コードをコンセントから抜いてください。

6 ビットストリーム/PCM（光/同軸）（デジタル音声出力端子）
- デジタル音声入力端子（光/同軸）付きのドルビーデジタルデコーダーやDTSデコーダー内蔵のAVアンプ等を光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルで接続します。

7 映像出力端子
- テレビやアナログオーディオ機器等を映像ケーブルで接続します。

お知らせ
- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

1 HDMIボタン
- HDMI解像度を切り換えます。

2 トレイ 開/閉 ⏏ ボタン
- ディスクトレイを開閉します。
- 電源が「切」の場合は、電源を「入」にします。

3 数字ボタン（0～9）
- タイトル、チャプター、トラック、またはファイル番号を入力します。
- 数値を入力します。

4 サーチボタン
- サーチメニュー画面を表示します。

5 青/赤/緑/黄ボタン
- BDコンテンツ内のアイテムを選択するときに使用します。
- ファイルリストまたはサムネイル画面表示中、ページを切り換えます。

6 トップメニューボタン
- トップメニューを表示します。

7 カーソルボタン ▲ / ▼ / ◀ / ▶
- アイテムや設定を選択します。

8 セットアップボタン
- セットアップメニュー画面を表示します。

9 早戻し ◀◀ ボタン
- 再生中に早戻しをします。

10 スキップ I◀◀ボタン
- 再生中、一度押すことで再生しているタイトル、チャプター、トラック、またはファイルの始めに戻ります。
- 再生中、二度押すことで一つ前のタイトル、チャプター、トラック、またはファイルに戻ります。
- JPEGの再生中、一つ前のファイルに戻ります。

11 再生 ▶ ボタン
- 再生またはレジューム再生します。
- 電源が「切」の場合は、電源を「入」にします。

12 モードボタン
- BD、BDAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、またはAVCHDの再生時、早見・早聞き再生と画質調整の設定画面を表示します。
- BD、BDAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、CD、AVCHD、MP3、またはWMAの再生時、バーチャルサラウンドの設定画面を表示します。
- PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー）機能を持つBDビデオの再生時、PIPの設定画面を表示します。
- JPEGの再生時、スライド効果または画像サイズの設定画面を表示します。
- BD挿入時の再生停止中、BD-HD音声設定の設定画面を表示します。
- 音楽用CDまたはMP3/WMA/JPEGが記録されたディスク・SDカード挿入時の再生停止中、プログラムまたはランダム再生画面を表示します。

13 リピートボタン
- リピート設定画面を表示します。

14 PIPボタン
- PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー）機能を持つBDビデオの再生時、PIPの設定画面を表示します。

15 電源ボタン
- 電源を「入」、または本機をスタンバイ状態にします。（本機の電源を完全に切るには、電源コードを抜いてください。）

16 アングルボタン
- 複数のカメラアングルによる映像が記録されているディスクの再生中、アングルを切り換えます。
- JPEG画像表示中、時計回りに90度ずつ画像を回転します。

17 音声ボタン
- 音声設定画面を表示します。

18 字幕ボタン
- 字幕設定画面を表示します。

19 表示ボタン
- 再生中のメディアに関する情報を画面表示します。

20 クリアボタン
- 入力した情報を消したり、プログラム再生でプログラムしたトラックやファイルを消去する場合などに使用します。

21 ポップメニュー/メニューボタン
- ポップアップメニューやディスクメニューを表示します。

22 決定ボタン
- 設定を決定したり、メニュー画面で項目を選択します。

23 リターン ↩ ボタン
- 一つ前の設定画面に戻ります。

24 早送り ▶▶ ボタン
- 再生中に早送りをします。
- 一時停止中にスロー再生をします。

25 スキップ ▶▶Iボタン
- 再生中、次のタイトル、チャプター、トラック、またはファイルにスキップします。

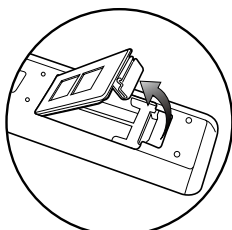
26 停止 ■ ボタン
- 再生を停止します。

27 一時停止 IIボタン
- 再生を一時停止します。
- 一時停止中、押すたびに 1 コマずつ再生します。

28 A-Bボタン
- A-Bリピートを設定します。

リモコン電池の入れかた

単３乾電池（1.5V　２個）をリモコンの乾電池収納部に入れます。

1)　ふたをはずす

2)　電池を乾電池収納部の表示通り正しく入れる

3)　ふたを元通りにする

リモコンと乾電池についてのご注意

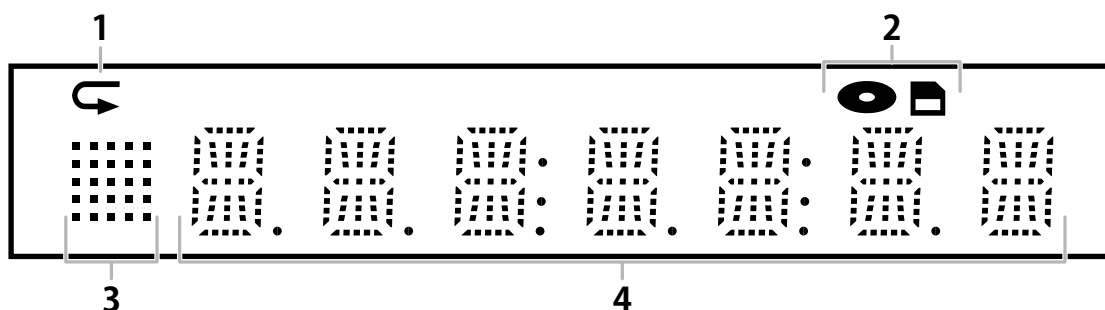
- リモコンに液状のものをかけないようにしてください。
- リモコンを落とさないようにしてください。
- リモコン操作ができる距離が短くなってきたら、乾電池が消耗しています。新しい乾電池に交換してください。（※付属の乾電池は動作確認用です。）
- 長期間使用しないときは、リモコンから乾電池を取り出してください。
- 本機を直射日光の当たる場所に置かないでください。誤動作する場合があります。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池を一緒に入れないでください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に入れないでください。

アルカリ乾電池ご使用のご注意

アルカリ乾電池は、外枠がプラス極になっているために、リモコンのマイナス極バネが乾電池のマイナス極と被覆（外枠の被覆がはがれている場合）に同時に接触した場合、乾電池そのものがショート（短絡）状態になり、ショートした部分が発熱しやけどする危険があります。アルカリ乾電池をご使用になる場合は、被覆がやぶれたり、はがれたりしていないものをご使用ください。

リモコンの操作方法

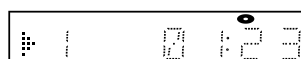
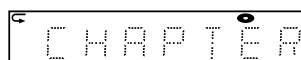
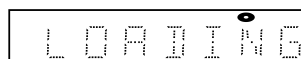
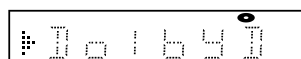
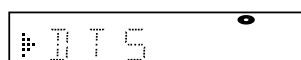
以下の点に注意してリモコンをご使用ください。

- リモコンとリモコン受光部の間に障害物を置かないでください。
- 日光や蛍光灯の強い光がリモコン受光部に当たっている場合、リモコンが動作しないことがあります。
- 違う電子機器のリモコンが、それぞれのリモコン操作の妨げとなる場合があります。
  ほかの電子機器のリモコンを本機の近くで使用しないようにしてください。
- リモコンの受信許容範囲内でご使用ください。
  （正面）約７m 以内
  （左右）約30° の範囲で、約５m 以内
  （上）　約15° の範囲で、約５m 以内
  （下）　約30° の範囲で、約３m 以内

本体表示部

表示パネルの明るさは、セットアップメニュー画面の、"本体表示部調整" (☞ 52ページ)で調整することができます。

1　リピート再生中、リピートアイコンが表示されます。
2　メディアアイコンが表示されます。(ディスクモード/SDカードモード)
3　再生状態を表すアイコンが表示されます。下記の表をご覧ください。
4　ディスクの各種情報や再生経過時間などを表示します。

再生状態アイコン	説明
	再生中に表示します。
	停止中に表示します。
	一時停止中に表示します。
	早送り中に表示します。
	早戻し中に表示します。
	スロー再生中に表示します。

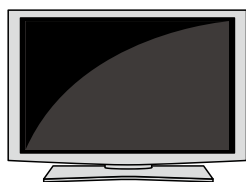
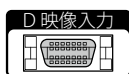
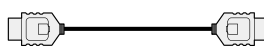
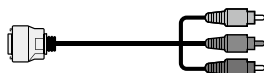
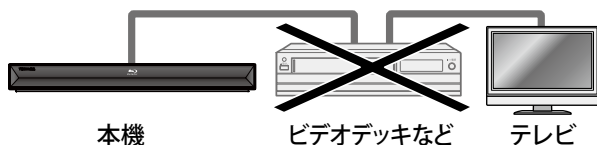
表示例

タイトルを再生中です。
タイトル番号と再生経過時間を表示しています。

チャプターリピートモード中です。

ディスクの読み込み中です。

ドルビーデジタル音声で再生中です。

DTS音声で再生中です。

接続する

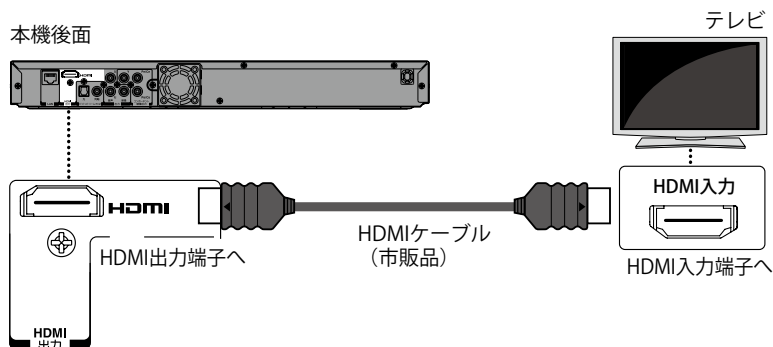
接続を始める前に
- 本機の電源プラグをコンセントから抜いた状態で、各機器との接続を行ってください。
- 接続する機器の電源を必ず「切」にしてください。
- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

テレビとの接続

本機に接続するテレビの入力端子と画質について

本機と接続する機器の背面などにある、映像や音声の入力端子をご確認ください。映像をよりきれいにご覧いただいたり、ハイビジョン映像をそのままきれいな画質でお楽しみいただくには、HDMI入力に対応しているテレビ、モニターやプロジェクターが必要になります。**接続する機器がHDMI入力に対応しているときは、HDMI端子につなぐことをおすすめします。**本機とつなぐテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。

本機とつなぐには、右図のような、「HDMI 入力」、「D 映像入力」、「コンポーネント映像入力」や「入力 1」といった、入力端子のいずれかが必要です。
また、接続する入力端子によっては、専用のケーブルやコードが必要になります。

※音声をつなぐときは、付属の音声ケーブルをお使いください。

- **ご注意**
  本機の映像出力は直接テレビに接続するか、AVアンプを経由してテレビに接続してください。本機からの映像をビデオデッキ、ビデオ内蔵テレビ、セレクターなどを通してご覧になると、コピー防止機能によって正常な映像にならないことがあります。

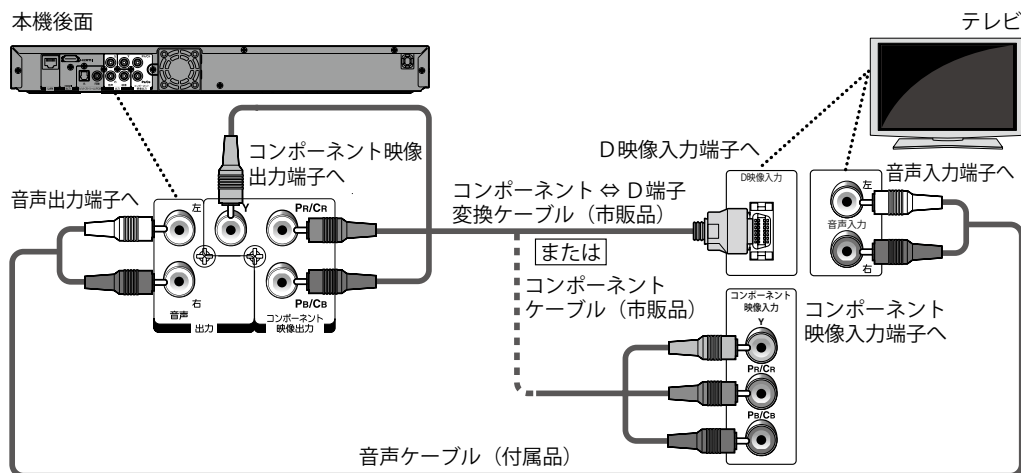
HDMI入力端子付きテレビに接続する場合

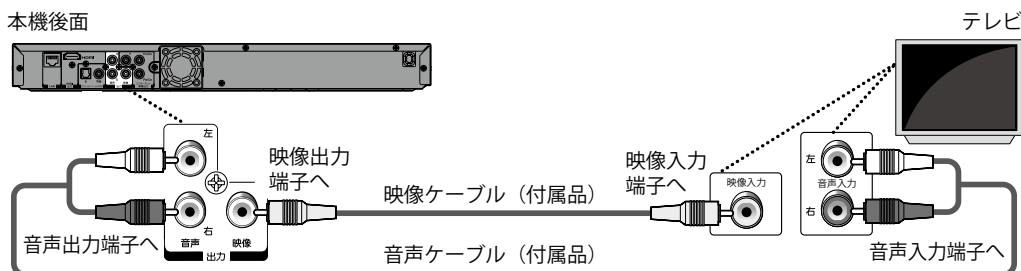
本機のHDMI出力端子とテレビのHDMI入力端子を市販のHDMIケーブルでつなぎます。
HDMI端子は、映像と音声の両方を兼ねているので、接続が１本のケーブルで済みます。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（HDMI®）の表示があるケーブルをお使いください。

当社製REGZAシリーズ（テレビ）とつなぐときは、HDMI端子を使ってつなぐと「レグザリンク機能」が使えます。（レグザリンク対応品に限ります。）レグザリンクについて詳しくは、"HDMI機器制御（レグザリンク機能について）"（☞ 53ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 接続の際は、端子の形と方向を確かめ正しい方向でまっすぐ接続してください。
- お使いのテレビがHDCP非対応の場合、映像が正しく出力されない場合があります。

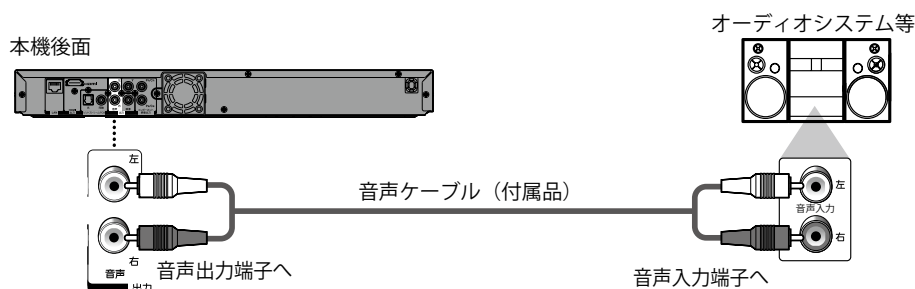
D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子付きテレビに接続する場合

本機のコンポーネント映像出力端子とテレビのD映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子を市販のコンポーネント⇔D端子変換ケーブルまたはコンポーネントケーブルでつなぎます。
- 音声は本機の音声出力端子とテレビの音声入力端子を、付属の音声ケーブルでつないでください。

映像入力端子付きテレビに接続する場合

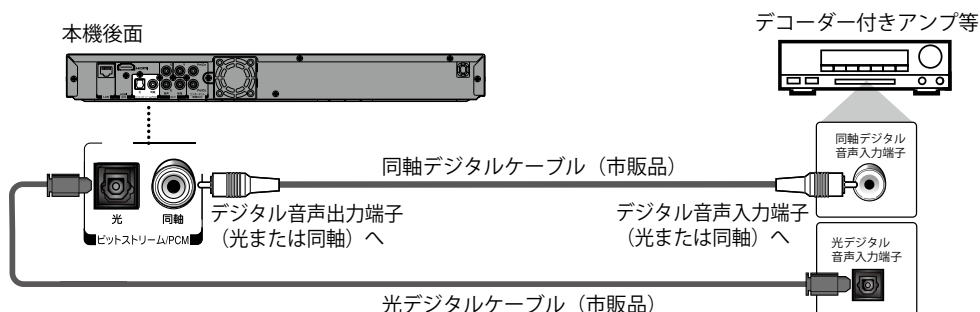
本機の映像・音声出力端子とテレビの映像・音声入力端子を、付属の映像/音声ケーブルでつなぎます。

オーディオシステムとの接続

接続に関する詳しい情報は、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

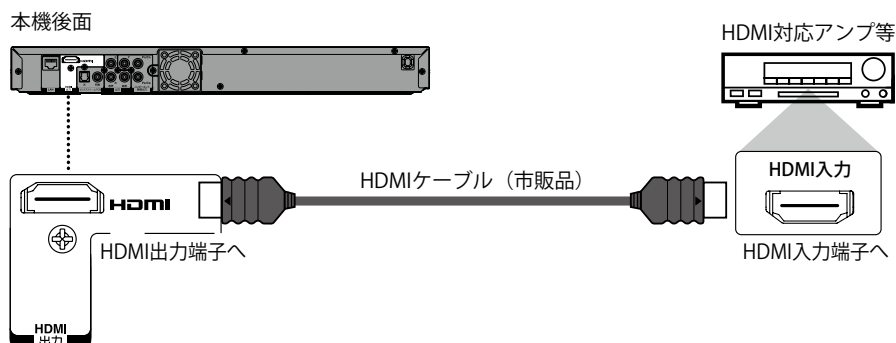
アナログ 2 チャンネル音声入力端子付きオーディオ機器に接続する場合

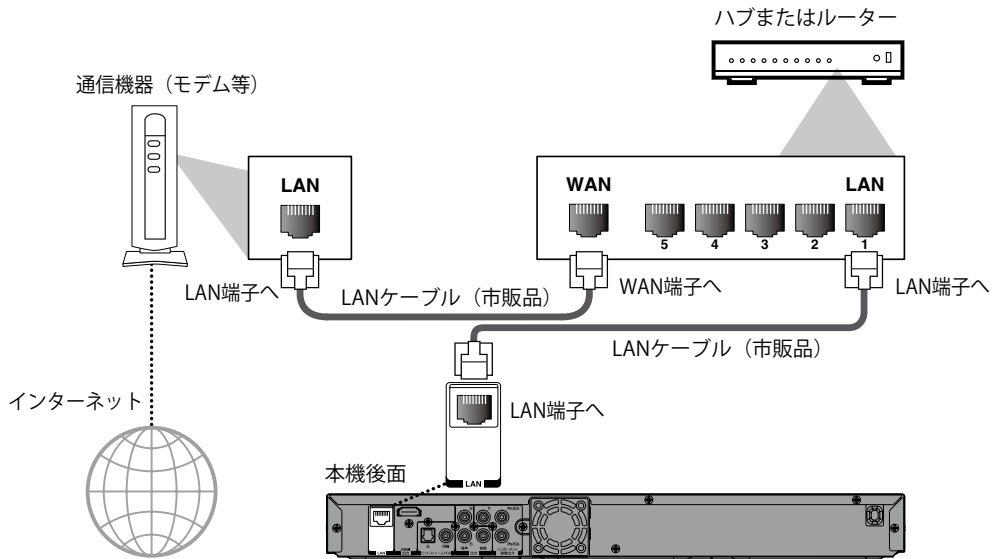
本機の音声出力端子とお使いのオーディオ機器の音声入力端子を付属の音声ケーブルでつなぎます。

デジタル音声入力端子付きアンプやドルビーデジタルまたはDTS対応デコーダー付アンプに接続する場合

本機のデジタル音声出力端子 （光または同軸）とお使いのアンプのデジタル音声入力端子 （光または同軸）を、光デジタルケーブル（市販品）または同軸デジタルケーブル（市販品）でつなぎます。ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダー内蔵のアンプに接続することで、ドルビーデジタルやDTSの音声が収録されたディスクの再生時に、迫力と臨場感あふれるサラウンド音声をお楽しみいただけます。

● デジタル音声出力の設定については、"デジタル音声出力設定" (☞ 47ページ) をご覧ください。

HDMI入力端子付きオーディオ機器に接続する場合

本機のHDMI出力端子とオーディオ機器のHDMI入力端子を市販のHDMIケーブルでつなぎます。

● HDMI出力の音声設定については、"HDMI音声出力設定" (☞ 46ページ) をご覧ください。

ネットワーク接続

本機をインターネットに接続することで、BD-Live機能を使用することができます。
- BD-Liveの詳細については、"BD-Liveについて"（☞ 37ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 詳しい接続方法については、お使いの通信機器の取扱説明書をご覧ください。
- 接続が完了したら、"ネットワーク設定"（☞ 54ページ）で必要な設定を行ってください。
- LAN端子にはLANケーブル以外のケーブルを接続しないでください。故障の原因になります。
- ルーターは通信速度が10BASE-Tまたは100BASE-TXに対応しているルーターを使用してください。
- 本機とパソコンのLAN端子とは直接つながないでください。故障の原因になります。

接続が完了したら

本機とテレビの電源を入れ、テレビのチャンネルを本機を接続した外部入力に切り換えてください。

1 [電源]を押して本機の電源を入れる

2 テレビの電源を入れる

3 テレビのチャンネルを本機を接続した外部入力に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 正しい入力に切り換えると、オープニング画面が表示されます。

お知らせ

- HDMIケーブルを使用してテレビを接続している場合、オープニング画面が表示されるまで少し時間がかかることがあります。

再生に関する情報

再生を始める前に、以下の情報をお確かめください。

再生できるディスクとファイル

本機で再生できるディスクとファイルは次の通りです。

再生できるディスク	ロゴ	ディスク盤の大きさ
BDビデオ	Blu-ray Disc	12cm片面1層、2層
BD-RE (Ver. 2.1)	Blu-ray Disc	12cm / 8cm 片面1層、片面2層
BD-R (Ver. 1.1 / 1.2 / 1.3)	Blu-ray Disc	12cm / 8cm 片面1層、片面2層
DVDビデオ	DVD VIDEO	12cm片面1層、2層 12cm両面2層 8cm片面1層
DVD-RW	DVD RW	12cm / 8cm 片面1層
DVD-R	DVD R	12cm / 8cm 片面1層、片面2層
CD-DA（音楽用CD）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	12cm / 8cmディスク
CD-RW	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable / COMPACT disc ReWritable	12cm / 8cmディスク
CD-R	COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc Recordable	12cm / 8cmディスク
コダックピクチャーCD	Kodak Picture CD COMPATIBLE	12cmディスク
DTS-CD	-	12cmディスク

再生できるファイル	メディア
AVCHD	DVD-RW/-R、 SDメモリーカード、 SDHCメモリーカード、 miniSDカード、microSDカード
MP3	BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-R、 SDメモリーカード、 SDHCメモリーカード、 miniSDカード、microSDカード
Windows Media™ Audio	
JPEG	

本機で再生できる記録方式について

BD-RE/-Rディスク

本機では、**BDMV（Blu-ray Disc Movie）モード**または**BDAV（Blu-ray Disc Audio/Visual）モード**で記録されたBD-RE/-Rを再生することができます。また、ファイナライズ（クローズ）を行っていないBD-Rは再生きないことがあります。なお、ディスクの記録状態によってはディスクが読み取れなかったり、正常に再生できないことがあります。

DVD-RW/-Rディスク

本機では、**AVCRECモード**、**VR（ビデオレコーディング）モード**または**ビデオモード**で記録されたDVD-RW/-Rを再生することができます。また、ファイナライズを行っていないディスクは再生できません。なお、ディスクの記録状態によってはディスクが読み取れなかったり、正常に再生できないことがあります。

リージョンコードおよびカラー方式について

- 本機で再生できるBDビデオのリージョンコードはA（またはAを含むもの）です。

- 本機で再生できるDVDビデオのリージョンコードは2またはALLです。

- 本機と異なるリージョンコードのディスクは再生できません。
- 本機では、NTSC（日本のテレビ方式）以外の方式で録画されたディスクは再生できません。

Windows Media™ Audioについて

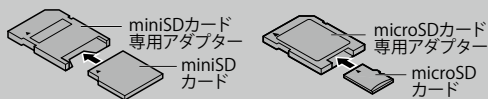
- デジタル著作権管理（DRM： Digital Rights Management）によって保護されているWMAデータファイルは再生できません。

再生できるSDカード

本機で再生できるSDカードは次の通りです。

再生できるカードの種類	再生できるファイル
SDメモリーカード(8MB～2GB)	● AVCHD・MP3・WMA・JPEG ● BD用ピクチャー・イン・ピクチャーや字幕などのBDプロファイル2.0/1.1
SDHCメモリーカード(4GB～8GB)	
miniSDカード(8MB～2GB)	
microSDカード(8MB～2GB)	

SDカードについて

- 本機は、ファイルシステムがFAT12またはFAT16のSDメモリーカード、およびFAT32のSDHCメモリーカードに対応しています。(NTFSファイルシステムには対応していません。)
- SDカードをパソコンでフォーマット(初期化)すると、本機で使用できない場合があります。このようなときは、本機で再度フォーマットしてください。詳しくは"初期化" (☞ 59ページ)をご覧ください。
- 本機はminiSDHCカードおよびmicroSDHCカードには対応していません。
- miniSDカードまたはmicroSDカードには、専用のアダプターが必要となります。

- 本製品の一部は、ARIS/SOLANA/4Cの許諾のもと提供され、著作権法によって保護されています。
- SDカードはケースに入れて保管してください。
- SDカードは分解したり、修理しないでください。
- SDカードの金属端子(記録)部を指などで直接触らないでください。
- SDカードに付いているラベルを剥がさないでください。また、ラベルやシール等を貼らないでください。
- 本機で認識できるSDカードに記録されたフォルダ名は全角4文字です。全角4文字を超えたフォルダ名は、4文字目までしか表示されません。

再生できないメディアとファイル

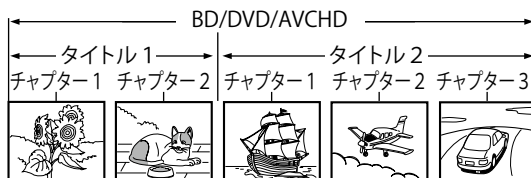
以下のディスクおよびファイルは本機で再生できません。

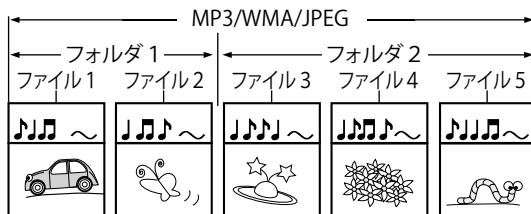
- CD-ROM
- CD-I
- DVD-RAM
- VSD
- DVD-audio
- video CD
- HD DVD
- SVCD
- デュアルディスク
- 未ファイナライズのディスク
- BD-RE (Ver. 1.0)
- DivX®ファイルを記録したBD/DVD/SDメモリーカード
- BD / DVDハイブリッドディスク (BD層のみ再生可)
- AVCHDファイルを記録したBD-RE/-R
- スーパーオーディオCD(ハイブリッドディスクで、CD層に記録された音声のみ再生可能)

著作権について

- ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。
- 本製品は、著作権保護技術を採用しており、米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。
- この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

ディスクおよびSDカードの構成について

BDビデオ、DVDビデオ、AVCHDは、いくつかの大きな区切り(タイトル)と小さな区切り(チャプター)に分けられています。それぞれの区切りに番号が割り当てられ、これらの番号をタイトル番号、チャプター番号と呼びます。

音楽用CDは、楽曲ごとなどのいくつかの区切り(トラック)に分けられています。それぞれの区切りに番号が割り当てられ、これらの番号をトラック番号と呼びます。

BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-RやSDカードに記録されたMP3やWMA、JPEGファイルは、いくつかの大きな区切り(フォルダ)と小さな区切り(ファイル)に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。

再生中の情報を表示する

再生中のメディアに関する情報（現在再生中のチャプターや再生経過時間など）をテレビ画面に表示させて、確認することができます。

1 **再生中に[表示]を押す**
- 現在の再生状態が表示されます。

2 **お好みの情報が表示されるまで、繰り返し[表示]を押す**
- 画面表示の詳細については、"画面表示の切り換わりかた"（☞ 以下）および"画面表示の表示例"（☞ 以下）をご覧ください。

3 **通常画面に戻すには、画面表示が消えるまで繰りかえし[表示]を押す**

画面表示の切り換わりかた

BD ビデオ / BD BDAVモード / DVD -RW/-R AVCRECモード / AVCHD

切 ➡ タイトル / チャプター情報
➡ タイトル情報（再生経過時間）
➡ タイトル情報（再生残り時間）
➡ 音声デコード情報 ➡ 切

DVD ビデオ / DVD -RW/-R VRモード

切 ➡ チャプター情報（再生経過時間）
➡ チャプター情報（再生残り時間）
➡ タイトル情報（再生経過時間）
➡ タイトル情報（再生残り時間）
➡ 音声デコード情報 ➡ 切

CD

切（トラック情報（再生経過時間））
➡ トラック情報（再生残り時間）
➡ ディスク情報*（再生経過時間）
➡ ディスク情報*（再生残り時間）
➡ 切（トラック情報（再生経過時間））

*プログラム再生中 / ランダム再生中は表示できません。

MP3

切（ファイル情報（再生経過時間））
➡ ファイル名情報
➡ 切（ファイル情報（再生経過時間））

WMA

切（ファイル情報（再生経過時間））
➡ ファイル名情報 ➡ タグ情報（タイトル名情報）
➡ タグ情報（アーティスト名情報）
➡ 切（ファイル情報（再生経過時間））

JPEG

切 ➡ ファイル情報（ファイル番号）
➡ ファイル名情報 ➡ 切

画面表示の表示例

チャプター情報

BD / BDAV / AVCREC / AVCHDの再生時：

DVD/DVD-VRの再生時：

1. **現在再生中のタイトル番号**
2. **現在再生中のチャプター番号 / タイトルに含まれる合計チャプター数**
3. **現在のリピート設定（リピート設定中にのみ表示）（C：チャプターリピート / T：タイトルリピート / AB：ABリピート）**
4. **アングルアイコン（マルチアングル対応時に表示）**
5. **現在の再生状態**
6. **現在再生中のチャプターの再生経過時間（または再生残り時間）**

タイトル情報

1. **現在再生中のタイトル番号 / ディスクまたはSDカードに含まれる合計タイトル数**
2. **現在再生中のタイトルの再生経過時間（または再生残り時間）**

トラック / ファイル情報

1. **現在再生中のトラック（ファイル）番号 / 合計トラック（ファイル）数**
2. **現在再生中のトラック / ファイルの再生経過時間（または再生残り時間）（JPEGファイルを除く）**
3. **SDカードの再生中表示**
4. **現在のリピート設定（リピート設定中にのみ表示）（T：トラックリピート / G：グループリピート / A：オールリピート / AB：ABリピート）**

ディスク情報

1. **現在再生中のトラック番号 / ディスクに含まれる合計トラック数**
2. **現在再生中のディスクの総再生経過時間（または総再生残り時間）**

ファイル名情報

1

ファイル名_001

1 **メディアアイコンとファイル名**

: MP3ファイル
: WMAファイル
: JPEGファイル

タグ情報

タイトル名情報:

アーティスト名情報:

1 **現在再生中のWMAファイルのタイトル名**
2 **現在再生中のWMAファイルのアーティスト名**

音声デコード情報

1

Dolby Digital

1 **出力中の音声フォーマット**

再生の前に

ディスクの入れかた

1 **[トレイ開/閉 ▲]を押し、ディスクトレイを開く**

2 **ディスクを再生したい記録面を下にして、ディスクトレイに置く**

トレイガイドに合わせて水平に載せる

- "再生できるディスクとファイル" (☞ 21ページ)で、本機で再生できるディスクをお確かめください。

3 **[トレイ開/閉 ▲]を押し、ディスクトレイを閉じる**

ディスクの読み込みが始まります。
(読み込みに時間がかかることがあります。)

ディスクを取り出すには:
[トレイ開/閉 ▲]を押してディスクトレイを開き、ディスクを取り出してください。ディスクを取り出したあとは**[トレイ開/閉 ▲]**を押し、ディスクトレイを閉じてください。

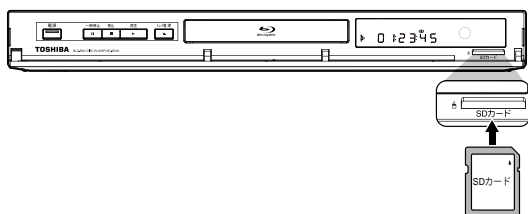
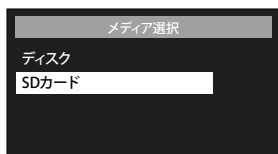
SDカードを再生する

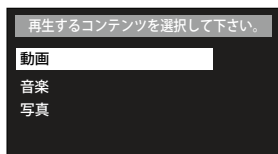
AVCHD MP3 WMA JPEG

本機では、SDカードに記録されたAVCHD / MP3 / WMA / JPEGファイルを再生できます。
また、SDカードを利用して以下の機能を楽しむことができます。
- BD-ROMプロファイル1.1の機能（詳しくはディスクの説明書をご覧ください。）
- BD-Live機能（BD-ROM プロファイル2.0）

BD-Liveについては、"BD-Liveについて"（☞ 37ページ）をご覧ください。

1 SD カードのラベル面を上にして水平に持ち、本体前面のスロットにカチッと音がするまで挿入する

- ディスク動作中でない場合は、自動で"メディア選択"画面が表示されます。

2 [▲ / ▼]で"SDカード"を選び、[決定]を押す

- コンテンツ選択画面が表示されます。
- 1 種類のファイルのみ書き込まれたSDカードの場合、手順 4 に進んでください。

3 [▲ / ▼]で"動画"、"音楽"または"写真"を選び、[決定]を押す

- "音楽"を選ぶとMP3またはWMA、"写真"を選ぶとJPEGの"ファイルリスト"が自動で表示されます。
- AVCHDの再生は、"動画"を選択した直後から始まります。（AVCHDではファイルリストは表示されません。）

4 [▲ / ▼]でフォルダまたはファイルを選び、[決定]または[再生 ▶]を押す

- ファイルを選択し**[決定]**を押すと、再生が始まります。
- ファイルがフォルダの中にある場合は、再生したいファイルを選ぶまで手順 4 を繰り返してください。
- 前後の階層に移動するときは、**[◀ / ▶]**を押してください。
- 再生を停止するには、**[停止 ■]**を押してください。

SDカードを取り出すには :
再生が停止されていることを確認し、軽く奥に押してから引き抜いてください。

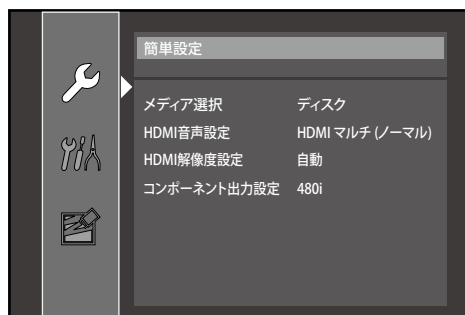
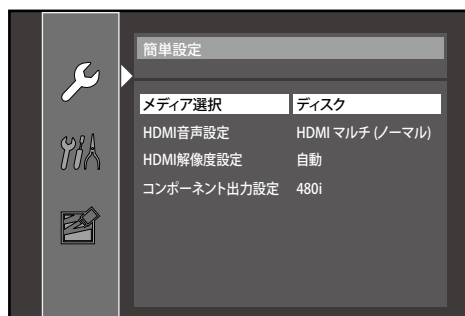
お知らせ

- "メディア選択"画面は以下の場合に表示が消えます。
  - スクリーンセーバーが実行されたとき
  - **[リターン ↩]**を押したとき
  - セットアップメニュー画面を表示したとき
- 操作を行う前に"メディア選択"画面が消えた場合、"メディアを選択する"（☞ 26ページ）を参照して"メディア選択"画面を表示してください。
- SDカードのファイル再生中にカードを抜いたり、本機をスタンバイ状態にしないでください。ファイルが壊れたり、故障の原因になることがあります。
- SDカード内のフォルダやファイルを、パソコン上で消さないでください。SDカードをパソコンでフォーマット（初期化）すると、本機で使用できない場合があります。このようなときは、本機で再度フォーマットしてください。詳しくは、"初期化"（☞ 59ページ）をご覧ください。
- フォルダ名やファイル名に下記の認識できない文字が使用されている場合、フォルダ名、ファイル名が正しく表示できないことがあります。
  - 認識できない文字 : ., " = + [ ] ; / \ : | ¥
- 本機では、SDカードは999フォルダ、9999ファイルまで認識できますが、構成によっては、記述の数値まで表示しない場合があります。
- 本機は、SDカード内で 9 階層までのフォルダを認識することができます。（それ以下の階層のフォルダは認識できません。）
- SDカードでは、拡張子が".jpg（.JPG）"以外のJPEGファイルは認識されません。

メディアを選択する

ディスクとSDカードの両方が本機に挿入されているとき、再生するメディアを以下の手順で選択します。
”メディア選択”画面はSDカード挿入時にのみ表示可能になります。

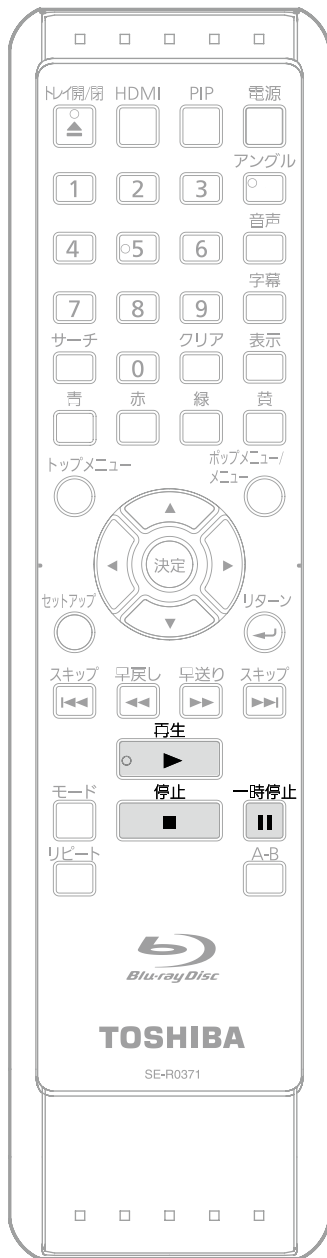
1 **再生の停止中に[セットアップ]を押す**

2 **[▲ / ▼]で 🔧 を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で”メディア選択”を選ぶ**

4 **[決定]を繰り返し押し、お好みのメディアを選ぶ**

5 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

本機をスタンバイ状態にすると、”メディア選択”が”SDカード”から”ディスク”に切り換わります。

BD、DVD、AVCHDを再生する

BD ビデオ　DVD ビデオ　AVCHD

1 **ディスクを入れる**

- ディスクの入れかたは、"ディスクの入れかた"（☞ 24ページ）を参照してください。

2 **自動的に再生を開始します**

- 自動的に再生を開始しない場合は、**[再生 ▶]**を押してください。
- ディスクによっては、メニュー画面が表示されるものがあります。ディスクのメニュー画面については、"ディスクに記録されているメニューを使う"（☞ 28ページ）を参照してください。

再生を一時停止するには：
[一時停止 ❚❚]を押す

通常の再生に戻すには：
[再生 ▶]を押す

再生を停止するには：
[停止 ■]を押す
（※再生を停止した場所のレジューム情報が記憶されます。）

レジューム機能について

レジューム情報が記録されているときに**[再生 ▶]**を押すと、再生を停止した場所から再生が始まります。

- BD-J対応ディスクは、ディスクによってレジューム機能を利用できないものがあります。
- "ディスク"モード選択中、レジューム情報は以下の場合に消えます。
  - レジューム情報が記録されているときに、再度**[停止 ■]**を押す
  - 視聴制限レベルが変更されたとき
  - ディスクトレイを開けたとき
- "SDカード"モード選択中、レジューム情報は以下の場合に消えます。
  - レジューム情報が記録されているときに、再度**[停止 ■]**を押す
  - SDカードを本機から抜いたとき
  - 本機をスタンバイ状態にしたとき

お知らせ

- ディスクや本機により禁止されている操作が行われると、操作中にテレビ画面の右上に ⃠ が表示されることがあります。
- ２層ディスクの場合、レイヤーの変わり目で一瞬画像が静止することがありますが、故障ではありません。
- ソフト制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。詳しくは、それぞれのディスクの説明書をご覧ください。
- 一時停止中の映像にブレが生じる場合は、再生を一旦停止してから、"スチルモード"を"フィールド"に切り換えてください。（☞ 44ページ）

ディスクに記録されているメニューを使う

BD ビデオ　DVD ビデオ　AVCHD

複数のタイトルが入っているBDビデオ、DVDビデオ、AVCHDでは、トップメニューからお好みのタイトルを選択し再生することができます。また、DVDビデオにはディスクメニュー、BDビデオにはポップアップメニューと呼ばれる特別なメニューが用意されているものがあり、ディスクのいろいろな操作がメニュー上で行えます。
（※メニューの内容はディスクにより異なります。）

トップメニューを使うとき（BDビデオ / DVDビデオ / AVCHD）

1 [トップメニュー]を押す
- トップメニューが表示されます。

2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]でお好みの項目を選び、[決定]を押す

3 [トップメニュー]を押してトップメニューの表示を消す

ディスクメニューを使うとき（DVDビデオ）

1 [ポップメニュー/メニュー]を押す
- ディスクメニューが表示されます。

2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]でお好みの項目を選び、[決定]を押す

3 [ポップメニュー/メニュー]を押してディスクメニューの表示を消す

ポップアップメニューを使うとき（BDビデオ）

ポップアップメニューは再生中の映像の前面に表示されます。

1 再生中に[ポップメニュー/メニュー]を押す
- ポップアップメニューが表示されます。

2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]でお好みの項目を選び、[決定]を押す

3 [ポップメニュー/メニュー]を押してポップアップメニューの表示を消す

お知らせ
- メニューの内容や操作方法はディスクにより異なります。詳しくはディスクの説明書をご覧ください。
- SDカードに記録されたAVCHDも、ディスクと同様にトップメニューを表示できます。

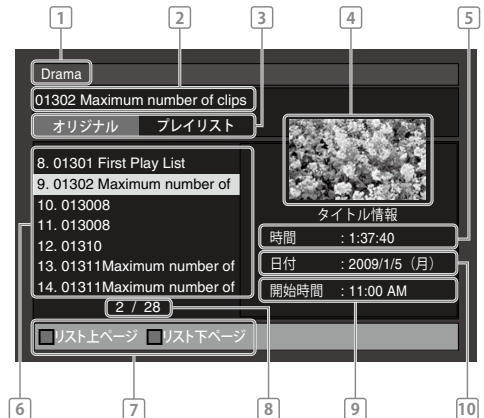
BDAVモードやAVCRECモード、VRモードで記録されたディスクを再生する

BD BDAVモード　DVD -RW/-R AVCRECモード　DVD -RW/-R VRモード

BDAVモードで記録されたBD-RE/-RディスクやAVCRECモード、VRモードで記録されたDVD-RW/-Rディスクにプレイリストを設定しているときは、”オリジナル”または”プレイリスト”を選んで再生することができます。

1 再生の停止中に[ポップメニュー/メニュー]を押す
- タイトルリストが表示されます。

2 [◀ / ▶]で”オリジナル”または”プレイリスト”を選ぶ。

オリジナルを選択した場合：

1. **ディスク名**
2. **選択中のタイトル名**
3. **”オリジナル”または”プレイリスト”**
4. **サムネイル画像（選択中のタイトルを小画面で最初から再生します。）**
5. **選択中タイトルの総再生時間**
6. **タイトル名のリスト表示**
7. **操作ガイド：[青]** リスト上ページへ移動
：[赤] リスト下ページへ移動
8. **現在のページ数 / 合計ページ数**
9. **選択中タイトルの録画を開始した時間**
10. **選択中タイトルを録画した日付**

3 [▲ / ▼]でお好みのタイトルを選び、[決定]または[再生 ▶]を押す
- 再生が始まります。

お知らせ

- BDAVモードやAVCRECモード、VRモードは、各モードに対応しているディスクを使ってプログラム編集などを行う、BD/DVDレコーダーならではの機能を楽しむ記録フォーマットです。
- BD/DVDレコーダーで録画したディスクの場合、録画して作られたタイトル（番組）をオリジナルと呼びます。
- オリジナルをもとに編集用に作成したタイトルをプレイリストと呼びます。プレイリストが作成されていないディスクでは、オリジナルのみを表示します。
- ファイナライズされていないBD-RE/-Rや、DVD-RW/-Rは再生できません。
- タイトルリスト画面は記録したBDレコーダー、DVDレコーダーやディスクによって異なります。
- ディスク名、タイトル名では、認識されない記号などの文字は＊（アスタリスク）で表示されます。また、記録方式によっては、認識できる文字であっても＊（アスタリスク）で表示される場合があります。

音楽用CD、MP3、WMA、JPEGを再生する

CD　MP3　WMA　JPEG

1 音楽用CDや、MP3 / WMA / JPEGファイルを書き込んだディスクを入れる

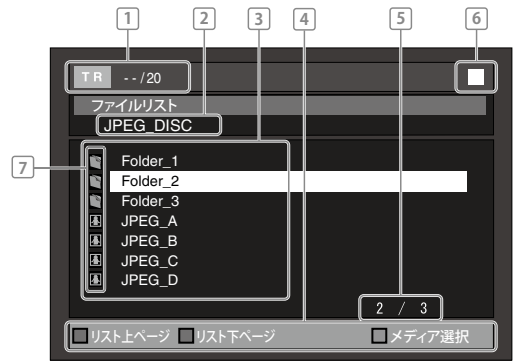
- コンテンツ選択画面が表示されます。
- 音楽用CDや、1 種類のファイルのみ書き込まれたディスクの場合、手順 3 に進んでください。
- SDカードでの再生方法は"SDカードを再生する"（☞ 25ページ）をご覧ください。

2 [▲ / ▼]で"動画"、"音楽"または"写真"を選び、[決定]を押す

- "音楽"を選ぶとMP3またはWMA、"写真"を選ぶとJPEGの"ファイルリスト"が自動で表示されます。

3 [▲ / ▼]でトラック、フォルダまたはファイルを選び、[決定]または [再生 ▶]を押す

- トラックまたはファイルを選択し**[決定]**を押すと、再生が始まります。
- ファイルがフォルダの中にある場合は、再生したいファイルを選ぶまで手順 3 を繰り返してください。
- 前後の階層に移動するときは、**[◀ / ▶]**を押してください。（MP3 / WMA / JPEGのみ）
- 再生を停止するには、**[停止 ■]**を押してください。

JPEGファイルが入っているディスクの場合：

1. **音楽用CD**：トラック情報
   MP3 / WMA / JPEG：ファイル情報
2. **音楽用CD**："CD-DA"の固定表示
   MP3 / WMA / JPEG：現在再生中のディスク名またはフォルダ名
3. **音楽用CD**：トラック名・時間のリスト表示
   MP3 / WMA / JPEG：フォルダ名またはファイル名のリスト表示
4. **操作ガイド**：**[青]** リスト上ページへ移動
   ：**[赤]** リスト下ページへ移動
   ：**[黄]** "メディア選択"へ戻る
5. **現在のページ数 / 合計ページ数**
6. **現在の再生状態**
7. **メディアアイコン**
   ：フォルダ
   ：音楽用CD
   ：MP3ファイル
   ：WMAファイル
   ：JPEGファイル

4 [停止 ■] を押し、再生を停止する

再生可能なファイル形式

本機では、以下のファイル形式のMP3 / WMA / JPEGを再生できます。（異なるファイル形式のMP3 / WMA / JPEGは再生できない場合があります。）

MP3 / WMA	
サンプリング周波数	32 kHz、44.1 kHz または 48 kHz
ビットレート	MP3　: 112 kbps - 320 kbps WMA : 48 kbps - 192 kbps

JPEG	
画像サイズ	最大：2,560 × 1,900ピクセル （サブサンプリング 4:4:4） 5,120 × 3,840ピクセル （サブサンプリング 4:2:2以下） 最小：32 × 32ピクセル
ファイルの容量	最大：12MB

ご使用になる前に　接続する　再生する　設定　その他

お知らせ

- BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-Rではディスク名 / フォルダ名 / ファイル名がひらがな、カタカナ、漢字や英数字、記号で表示されます。認識できない文字は、*(アスタリスク)で表示されます。
- 記録したときの条件によっては、一覧に表示されているフォルダやファイルでも再生できないことがあります。
- 高解像度で記録された場合など、JPEGファイルの容量が大きいと、画面表示に時間がかかることがあります。
- プログレッシブ形式で記録されたJPEG形式の画像は再生できません。
- 本機では、BD-RE/-R、DVD-RW/-Rは999フォルダ、9999ファイルまで、CD-RW/-Rでは255フォルダ、999ファイルまで認識できますが、構成によっては、記述の数値まで表示しない場合があります。
- 本機は、BD-RE/-R、DVD-RW/-Rで 9 階層まで、CD-RW/-Rで 8 階層までのフォルダを認識することができます。(それ以下の階層のフォルダは認識できません。)
- BD-RE/-R、DVD-RW/-R、CD-RW/-Rでは、下記の拡張子以外のMP3 / WMA / JPEGファイルは認識されません。
  - MP3 : ".mp3 (.MP3)"
  - WMA : ".wma (.WMA)"
  - JPEG : ".jpg (JPG)"または".jpeg (.JPEG)"
- ディスクにAVCHDまたは、AVCRECが混在している場合、AVCHDまたは、AVCRECを除くほかのファイルの再生はできません。(AVCHDとAVCRECがディスクに混在している場合、両方のファイルの再生が可能です。)
- マルチボーダーで記録したBD-RE/-Rの場合、追加して記録した部分の再生ができません。
- マルチボーダーで記録したDVD-RW/-Rの場合、追加して記録した部分の再生ができない場合があります。

ピクチャーCDを再生する

JPEG

本機はコダック(株)が扱っているピクチャーCDを再生することができます。これらのCDを再生することで、写真の画像をテレビで楽しむことができます。ピクチャーCDは、従来の銀塩フィルムカメラで撮った写真をデジタルデータに変換してCD-ROMに書き込むサービスです。本機は7.0以前のバージョンに対応しています。ピクチャーCDに関する詳細はコダック(株)の現像サービスを取り扱っている店頭にお問い合わせください。

1 ピクチャーCDを入れる

- サムネイル画面(画像一覧)が自動で表示されます。
- すべてのメニュー項目が表示されるまで時間がかかることがあります。

1 **ファイル情報**
2 **現在のページ数 / 合計ページ数**
3 **操作ガイド: [緑]** リスト前ページへ移動
: [黄] リスト次ページへ移動
4 **現在の再生状態**

2 [▲ / ▼ / ◀ / ▶]で見たい画像を選び、[決定] または [再生 ▶]を押す

- 選択された画像から再生が始まります。画像はセットアップメニューの"JPEGスライドショー"で設定された時間("5秒"または"10秒")で表示され、次の画像に移ります。
- 画像を表示しているときは、**[アングル]**を押すごとに時計回りに90度ずつ画像が回転します。

3 [停止 ■] を押し、再生を停止する

- サムネイル画面に戻ります。

最初の画像を選択するには :
[トップメニュー]を押す

最後に再生した画像を選択するには :
[ポップメニュー/メニュー]を押す

お知らせ

- ファイルのサイズが大きい場合、"JPEGスライドショー"で設定された時間よりも表示時間が長くなる場合があります。
- ピクチャーCDの再生中に**[モード]**を繰り返し押すと、スライド効果と画像サイズが設定できます。詳しい設定方法については、"スライド効果を設定する"(☞ 以下)と"画像サイズを調整する" (☞ 以下)をご参照ください。

スライド効果を設定する

JPEG

JPEGファイルの画像をスライドショーで見るときに、スライドショーで切り換わる画像移行の効果が設定できます。

1　再生中に[モード]を押し、JPEG スライド効果設定画面を表示する

- 現在の設定状態が表示されます。

JPEG　カット　イン/アウト

2　[決定]または[◀ / ▶] で設定を切り換える

JPEG　フェード　イン/アウト

- **"カットイン / アウト"**：完全な画像を一度に表示し、消去します。
- **"フェードイン / アウト"**：画像を徐々に表示し、消去します。

3　[リターン ↩]を押し、設定を完了する

画像サイズを調整する

JPEG

お使いのテレビによって、表示されるJPEGファイルの端が切れるような場合に、画像を少し小さくして表示します。

1　再生中に[モード]を２回押し、画像サイズ設定画面を表示する

- 現在の設定状態が表示されます。

ノーマル

2　[決定]または[◀ / ▶]で設定を切り換える

スモール

- **"ノーマル"**：100%の画面サイズで表示します。
- **"スモール"**：95%の画面サイズで表示します。

3　[リターン ↩]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 一部のファイル（画像サイズが小さいファイル等）では、効果が出ないことがあります。

早送り/早戻し

BD ビデオ　BD BDAVモード　DVD ビデオ　DVD -RW/-R VRモード　DVD -RW/-R AVCRECモード　CD　AVCHD　MP3　WMA

1　再生中に[早送り ▶▶]または[早戻し ◀◀]を押す

- 繰り返し押すたびに早送り/早戻しの速度を切り換えます。

2　[再生 ▶]を押して通常の再生に戻る

お知らせ

- BD、BDAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、AVCHDの早戻し、早送り中は音声はでません。
- 早戻し、早送りの速度は、BD、BDAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、AVCHDでは５段階、音楽用CD、MP3、WMAファイルでは３段階まで切り換えできます。
- 音楽用CDのプログラム、ランダム再生中にトラックをまたいだり、MP3やWMAファイルをまたぐ早戻し、早送りはできません。

スロー再生

AVCHD

1　一時停止中に[早送り ▶▶]を押す

- 繰り返し押すたびにスロー再生の速度を３段階まで切り換えます。

2　[再生 ▶]を押して通常の再生に戻る

お知らせ

- スロー再生中は音声はでません。
- 逆スロー再生はできません。
- 一時停止中の映像にブレが生じる場合は、再生を一旦停止してから、"スチルモード"を"フィールド"に切り換えてください。(☞ 44ページ)

コマ送り再生

AVCHD

1 **一時停止中に[一時停止 ❙❙]を繰り返し押す**

- 繰り返し押すたびに、1 コマずつ再生します。

2 **[再生 ►]を押して通常の再生に戻る**

お知らせ

- コマ戻し再生はできません。
- 一時停止中の映像にブレが生じる場合は、再生を一旦停止してから、"スチルモード"を"フィールド"に切り換えてください。(☞ 44ページ)

リピート再生

再生するディスクやファイルによってリピート再生の機能が異なります。設定可能なリピートモードは下記の一覧をご覧ください。

リピートモード	再生するディスク / ファイル
チャプターリピート 現在のチャプターを繰り返し再生します。	BD ビデオ、BD BDAVモード、DVD ビデオ、DVD -RW/-R VRモード、DVD -RW/-R AVCRECモード、AVCHD
タイトルリピート 現在のタイトルを繰り返し再生します。	BD ビデオ、BD BDAVモード、DVD ビデオ、DVD -RW/-R VRモード、DVD -RW/-R AVCRECモード、AVCHD
トラックリピート 現在のトラックまたはファイルを繰り返し再生します。	CD、MP3、WMA
グループリピート 現在のフォルダを繰り返し再生します。	MP3、WMA、JPEG
オールリピート メディアに含まれるすべてのタイトル、トラックまたはファイルを繰りかえし再生します。	BD BDAVモード、DVD -RW/-R VRモード、DVD -RW/-R AVCRECモード、CD、MP3、WMA、JPEG

1 **再生中に[リピート]を押す**

- 現在の設定状態が表示されます。

2 **お好みのリピートモードが表示されるまで、繰り返し[リピート]を押す**

- 設定を完了し、約 3 秒間操作をしないと表示が消えます。

3 **通常の再生に戻すときは、"切"が表示されるまで繰り返し[リピート]を押す**

お知らせ

- 再生を停止すると、リピート再生は解除されます。
- オールリピートを除くすべてのリピートモードでは、リピート再生中にほかのタイトルやチャプター、トラック、フォルダ、ファイルを選択するとリピート再生は解除されます。
- A-Bリピート再生中は、リピート再生はできません。
- ディスクによっては、リピート再生ができないものがあります。
- 場面によっては、チャプターまたはタイトルリピートができないものがあります。

A-B リピート再生

BD ビデオ、DVD ビデオ、BD BDAVモード、DVD -RW/-R VRモード、DVD -RW/-R AVCRECモード、CD、AVCHD

指定した 2 点間を繰り返し再生します。

1 **再生中に[A-B]を押す**

- 開始場所Aを指定します。
- 開始場所Aをキャンセルする場合は、**[クリア]**を押します。

2 **再度[A-B]を押す**

- 終了場所Bを指定し、A-Bリピート再生を始めます。

3 **通常の再生に戻すときは、A-Bリピート再生中に[A-B]を押す**

お知らせ

- A-Bリピート再生は、同一のタイトル、トラックまたはファイル内にのみ設定できます。
- 場面によっては、A-Bリピート再生ができないものがあります。
- リピート再生中は、A-Bリピート再生はできません。

プログラム再生

CD MP3 WMA JPEG

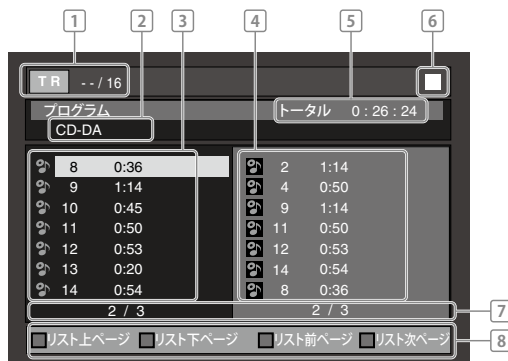
トラック番号やファイル番号を登録してお好きな順に再生することができます。

1 再生の停止中に[モード]を押す

- プログラム設定画面が表示されます。

2 [▲ / ▼]でお好みのトラック番号またはファイル番号を選び、[決定]を押す

- MP3やWMA、JPEGファイルがフォルダに入っている場合は、先に**[▲ / ▼]**でフォルダを選び、**[決定]**を押したあと、プログラムしたいファイルを選んでください。
- プログラムしたトラックまたはファイルを消去したい場合は、**[クリア]**を押すと最後に入力されたトラックまたはファイルから消去されます。
- 入力されたすべてのプログラムを消去する場合は、プログラムリスト末尾の”オールクリア”を選び、**[決定]**を押してください。
- 前後の階層に移動するときは、**[◀ / ▶]**を押してください。

音楽用CDの場合：

1. **音楽用CD**：トラック情報
MP3 / WMA / JPEG：ファイル情報
2. **音楽用CD**：”CD-DA”の固定表示
MP3 / WMA / JPEG：現在再生中のディスク名、SDカード名またはフォルダ名
3. **トラック / フォルダ / ファイルリスト：**
オリジナルの順番のトラック / フォルダ / ファイルのリスト
4. **プログラムリスト：**
プログラムした順番のトラック / フォルダ / ファイルのリスト
5. **プログラムしたすべてのトラックの合計時間（音楽用CDのみ表示）**
6. **現在の再生状態**
7. **現在のページ数 / 合計ページ数**
8. **操作ガイド：[青]** トラック / フォルダ / ファイルリストの前ページへ移動
：[赤] トラック / フォルダ / ファイルリストの次ページへ移動
：[緑] プログラムリストの前ページへ移動
：[黄] プログラムリストの次ページへ移動

3 登録が完了したら[再生 ▶]を押す

- プログラム再生を始めます。

通常の再生画面に戻るには：
再生の停止中に**[リターン ↩]**を押す。

お知らせ

- プログラム再生中に**[停止 ■]**を押すと、次回の再生時には音楽用CDは停止した位置、MP3/WMAは停止したファイルの先頭、JPEGは停止したファイルから再生を始めます。
- プログラム再生中に**[停止 ■]**を 2 回押すと、プログラム設定画面が表示されます。
- 99トラックまたは99ファイルまで登録できます。また、MP3とWMAファイルは、組み合わせた登録も可能です。
- プログラム再生中に、現在再生されているトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、” トラック”が表示されるまで、繰り返し**[リピート]**を押します。
- プログラム再生中に、現在プログラム登録されているすべてのトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、” オール”が表示されるまで、繰り返し**[リピート]**を押します。
- プログラム再生中に、プログラムした次のトラックまたはファイルを再生するときは**[スキップ ▶▶|]**を押してください。
- プログラム再生中は、ランダム再生はできません。
- プログラム設定画面表示中に**[モード]**を押すと、ランダム再生画面に切り替わります。
- プログラム設定は以下の場合に解除されます。
  - 本機をスタンバイ状態にしたとき
  - メディア選択を切り換えたとき
  - ディスクトレイを開けたとき
  - SDカードを本機から抜いたとき

ランダム再生

CD MP3 WMA JPEG

トラック単位またはファイル単位でランダム（順不同）に再生することができます。

1 再生の停止中に[モード]を２回押す

● ランダム再生画面が表示されます。

音楽用CDの場合 :

1 **音楽用CD** **:** トラック情報
MP3 / WMA / JPEG : ファイル情報

2 **音楽用CD** **:** ”CD-DA”の固定表示
MP3 / WMA / JPEG : 現在選択中のディスク名、SDカード名またはフォルダ名

3 **トラック / ファイルリスト :** オリジナルの順番のトラック / ファイルのリスト

4 **操作ガイド : [青]** トラック / ファイルリストの前ページ へ移動
: [赤] トラック / ファイルリストの次ページへ移動

5 **すべてのトラックの合計時間（音楽用CDのみ表示）**

6 **現在の再生状態**

2 [再生 ►]を押す

● ランダム再生を始めます。

通常の再生画面に戻るには :
再生の停止中に**[モード]**を押す。

お知らせ

- ランダム再生中に**[停止 ■]**を押すと、次回の再生時には音楽用CDは停止した位置、MP3 / WMAは停止したファイルの先頭、JPEGは停止したファイルから再生を始めます。
- ランダム再生中に、現在ランダム再生されているトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、” トラック”が表示されるまで、繰り返し**[リピート]**を押します。
- ランダム再生中に、現在ランダム再生されているすべてのトラックまたはファイルをリピート再生したい場合は、” オール”が表示されるまで、繰り返し**[リピート]**を押します。
- ランダム再生中は、プログラム再生はできません。また、前のトラックまたはファイルに戻ることはできません。
- ランダム再生中に、次のトラックまたはファイルを再生するときは**[スキップ ►►I]**を押してください。
- 再生の停止中に**[リターン ↩]**を押すと、プログラム設定画面に切り替わります。
- MP3やWMA、JPEGファイルが混在したディスクでは、音楽または写真ファイル内でのランダム再生を行います。すべてのファイルのランダム再生はできません。
- ディスクによっては、ランダム再生ができない場合があります。
- ランダム設定は以下の場合に解除されます。
  - 本機をスタンバイ状態にしたとき
  - メディア選択を切り換えたとき
  - ディスクトレイを開けたとき
  - SDカードを本機から抜いたとき

早見・早聞き再生

AVCHD

約1.3倍速で早見・早聞き再生ができます。この機能は、ドルビーデジタル方式で記録されたディスクでのみ動作します。

1 **再生中に、 早見・早聞き再生設定画面が表示されるまで、繰り返し[モード]を押す**

切

2 **[決定]または[◄ / ►]で設定を切り換える**

- **"切"** ：通常再生を行います。
- **"♪♪"** ：約1.3倍速に設定され、再生を始めます。

3 **[再生 ►]を押して通常の再生に戻る**

お知らせ

- **[停止 ■]**を押すと、ダイアログスピード再生は解除されます。
- 早見・早聞き再生中は、音声言語、画質調整の設定はできません。
- 早見・早聞き再生中は、バーチャルサラウンド機能は働きません。
- ディスクによっては、早見・早聞き再生が動作しない箇所があることがあります。
- 早見・早聞き再生中は、2ch　LPCMの音声がHDMI出力端子とデジタル音声出力端子から出力されます。

画質調整

AVCHD

お好みに合わせて画質の調節設定が行えます。

1 **再生中に、 画質調節設定画面が表示されるまで、繰り返し[モード]を押す**

2 **[▲ / ▼]で変更したい項目を選び、[◄ / ►]で設定を切り換える**

DVDビデオの場合：

黒レベル	◄ 切 ►
ノイズリダクション	切

黒レベル

画像の暗い部分が明るくなるように調整します。

"切" ：オリジナル画像のまま表示します。
"入" ：暗部を明るくします。

ノイズリダクション（DVDビデオ、DVD-VRのみ）

再生画像のノイズを軽減します。

"切" ：オリジナル画像のまま表示します。
"1" ：3Dノイズリダクションを実行し、背面部分に現れるノイズを除去します。
"2" ：MPEGノイズリダクションを実行し、字幕部分のブロックノイズとモスキートノイズを軽減します。
"3" ：MPEGノイズリダクションと3Dノイズリダクションの両方を実行します。

3 **[リターン ↩]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- 画質調整の各設定値は、本機をスタンバイモードにしても記憶されます。
- 設定中に電源コードを抜くと、設定値を記憶しない場合があります。
- 早見・早聞き再生中は、画質調整設定ができません。
- ノイズリダクションはBD、BDAV、AVCRECまたはAVCHD の再生時には利用できません。
- "黒レベル"は以下の場合に効果がありません。
  - HDMI出力端子から映像を出力中
  - コンポーネント映像出力端子から映像を出力中で、"コンポーネント出力設定"が"480p / 720p / 1080i"に設定されているとき

ご使用になる前に
接続する
再生する
設定
その他

バーチャルサラウンド設定

CD AVCHD MP3 WMA

お使いの２チャンネルステレオシステムで、仮想的なサラウンド効果を楽しむことができます。

1 **再生中に[モード]を押し、バーチャルサラウンド設定画面を表示する**

2 **[▲ / ▼]で設定を切り換える**

切 ◆

"切" : オリジナルの音声のまま出力します。
"1" : 標準の音声効果で出力します。
"2" : 強めの音声効果で出力します。

3 **[リターン ↩]を押し、設定を完了する**

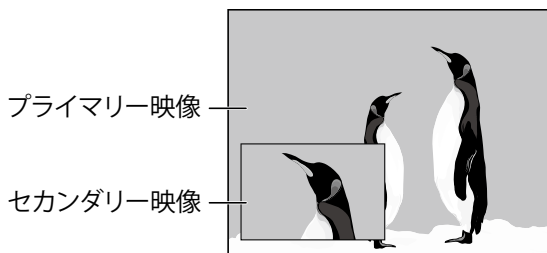
お知らせ

- ディスクによってはサラウンド効果がでにくいものや、でないものがあります。
- 音声がひずむ場合は、ボリュームを下げるか、バーチャルサラウンド設定を"切"にしてください。
- 早見・早聞き再生中は、バーチャルサラウンド機能は働きません。
- バーチャルサラウンド設定中の音声出力は2ch LPCMとなります。

PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー）（BONUSVIEW）の設定

BD ビデオ

PIP（ピクチャー・イン・ピクチャー）機能を持つBDビデオの再生時、セカンダリー映像を含むシーンで、セカンダリー映像を画面内に別画面で表示することができます。

プライマリー映像
セカンダリー映像

1 **再生中に[PIP]を押し、PIP設定画面を表示する**

- 現在の設定状態が表示されます。

1 / 32 ◆

2 **[▲ / ▼]でセカンダリー映像を切り換える**

- 設定を完了し、約５秒間操作をしないと表示が消えます。

3 **[リターン ↩]または[PIP]を押し、PIP設定画面の表示を消す**

お知らせ

- セカンダリー映像の音声は、"Secondaryオーディオ"が"切"、または"BD-HD音声設定"が"HD音声"に設定時には出力されません。
  詳しくは、"音声を切り換える"（☞ 38ページ）と"BD-HD音声設定を切り換える"（☞ 39ページ）をご覧ください。

アングルを切り換える

BD ビデオ　DVD ビデオ

複数のカメラアングルによる映像が記録されているBD、またはDVDの再生中に、アングルを切り換えることができます。カメラアングル映像が記録されたシーンでは 🎥 が画面に表示されます。

1 **再生中に[アングル]を押し、アングル設定画面を表示する**

- 現在再生中のアングル番号を表示します。

2 **[▲ / ▼]でアングルを切り換える**

- 設定を完了し、約５秒間操作をしないと表示が消えます。

1 / 3 ◆

お知らせ

- "アングルアイコン"を"切"に設定している場合、🎥 は表示されません。詳しくは、"アングルアイコン"（☞ 52ページ）をご覧ください。

BD-Liveについて

BD ビデオ

本機は、BD-Live機能付きのBDビデオ（BD-ROMプロファイル2.0）に対応しています。本機をインターネットに接続することで、特別映像や字幕などの追加コンテンツや、ネットワーク対戦ゲームなど、様々な機能を楽しむことができます。

1 BD-Live機能付きのディスクを入れる

2 充分な空き容量（1 GB以上）があるSDカードを挿入する

- 本機で対応しているSDカードのファイルシステムについては、"SDカードについて"（☞ 22ページ）をご覧ください。

3 [トップメニュー]を押す

- ディスクのトップメニューが表示されます。

4 "BD-Live"を選択し、[再生 ▶]または[決定]を押す

- SDカードが正しく挿入されているか確認し、再生中はSDカードを抜かないでください。
- BD-Liveで利用できる様々な機能は、ディスクにより異なります。詳しい機能や動作については、それぞれのディスクの画面表示や説明をご覧ください。

お知らせ

- BD-Live機能を利用するには、本機をインターネットに接続し、必要な設定を行ってください。接続のしかたについては"ネットワーク接続"（☞ 19ページ）を、設定のしかたについては"ネットワーク設定"（☞ 54ページ）をご覧ください。
- ディスクによっては、"BD-Live接続設定"（☞ 57ページ）を変更する必要がある場合があります。
- お使いのネットワーク環境によっては、ネットワーク接続に時間がかかったり、接続できない場合があります。
- BD-Liveに接続中、ページを読み込むのに時間がかかる場合があります。
- BD-Live対応ディスクの再生中、プレイヤーまたはディスクの識別IDがコンテンツプロバイダーに送信されることがあります。インターネット接続を制限するには、"BD-Live接続設定"（☞ 57ページ）を変更してください。
- BD-Live対応ディスクには、再生時にメモリーを必要とするものがあります。再生できない場合には、本機で初期化した 1 GB以上の空き容量があるSDカードを挿入して再生してください。

サーチ機能を使う

頭出しをする

再生中に[スキップ ⏮]または[スキップ ⏭]を押す

- 押した回数だけチャプターまたはトラック、ファイルを飛び越します。
- **[スキップ ⏮]**を 1 回押すと再生中のチャプターまたはトラック、ファイルの先頭に戻ります。
（JPEGでは 1 つ前のファイルに戻ります。）

お知らせ

- ディスクによっては、タイトルや、トラック、ファイルをまたぐ頭出しが禁止されている場合があります。
- チャプターがないタイトルの場合、**[スキップ ⏮]**または**[スキップ ⏭]**を押すことで前後のタイトルに切り換わります。
- JPEGでは、**[◀ / ▶]**でも同様の操作ができます。

サーチモード

ディスクやファイルによってサーチモードの機能が異なります。設定可能なサーチモードは下記の一覧をご覧ください。

サーチモード	再生するディスク / ファイル
チャプター / タイトルサーチ 指定したチャプターやタイトルを頭出しします。 ▶ TT	BD ビデオ、BD BDAVモード、DVD ビデオ、DVD -RW/-R VRモード、DVD -RW/-R AVCRECモード、AVCHD
トラックサーチ 指定したトラックやファイルを頭出しします。 TR	CD、MP3、WMA、JPEG
タイムサーチ 指定した時間で頭出しします。	BD ビデオ、BD BDAVモード、DVD ビデオ、DVD -RW/-R VRモード、DVD -RW/-R AVCRECモード、CD、AVCHD

1 再生中に[サーチ]を押す

- サーチモード設定画面が表示されます。

2 お好みのサーチモードが表示されるまで、繰り返し[サーチ]を押す

- それぞれ以下の順番でサーチモードが切り換わります。

BD/BDAV/DVD/DVD-VR/AVCREC/AVCHD	チャプターサーチ ➡ タイトルサーチ ➡ タイムサーチ
音楽用CD	トラックサーチ ➡ タイムサーチ
MP3/WMA/JPEG	トラックサーチ

3 数字ボタン[0〜9]で頭出ししたいチャプターやタイトル、トラック、ファイル番号または時間を入力する

- 希望した箇所の頭出しを行ったあと、再生を始めます。
- 間違えた入力をした場合は、**[クリア]**で消してください。

お知らせ

- プログラム再生中またはランダム再生中は、サーチモードでのトラック、ファイルの頭出しはできません。**[スキップ ⏮]**または**[スキップ ⏭]**で頭出しを行ってください。
- タイムサーチは、同一のタイトル、トラックまたはファイル内にのみ設定できます。
チャプター内でのサーチはできません。
- BDおよびAVCHDのチャプター、タイムサーチは、再生中のみ利用できます。
- 音楽用CDでは、ディスク全体のタイムサーチはできません。
- ディスクによっては、サーチモードが働かない場合があります。

ダイレクトサーチ

タイトルサーチ

再生の停止中、数字ボタン[0～9]で頭出ししたいタイトル番号を入力する
● 数秒のうちに指定したタイトルの再生が始まります。

チャプターサーチ

タイトルの再生中、数字ボタン[0～9]で頭出ししたいチャプター番号を入力する
● 数秒のうちに指定したチャプターの再生が始まります。

トラック / ファイルサーチ

数字ボタン[0～9]で頭出ししたいトラック / ファイル番号を入力する
● 数秒のうちに指定したトラック / ファイルの再生が始まります。

お知らせ
● BDビデオの場合、ディスクによっては上記の説明通りに動作しない場合があります。

字幕を切り換える

字幕に複数の言語が記録されているBD、DVD、DVD-VR、またはAVCHDファイルの再生中に、字幕を切り換えることができます。BDでは表示される字幕のスタイルも切り換えることができます。

BD ビデオ

プライマリー字幕（”Primary字幕”）/ セカンダリー字幕（”Secondary字幕”）や字幕スタイルを選びます。

1 再生中に[字幕]を押す
● 現在再生中の字幕番号を表示します。

2 [▲ / ▼]で”Primary字幕”、”Secondary字幕”または”字幕スタイル”を選び、[決定]を押す

Primary 字幕	1 日本語/11
Secondary 字幕	2 英語/11
字幕スタイル	2/25

”Primary字幕”：プライマリー映像の字幕を設定します。
”Secondary字幕”：セカンダリー映像の字幕を設定します。
”字幕スタイル”：字幕スタイルを選びます。

3 [▲ / ▼]でお好みの字幕言語または字幕スタイルを選ぶ
● [◄ / ►]で、現在の字幕設定と”切”を切り換えます。

4 [字幕]を押し、設定を完了する

DVD ビデオ　DVD -RW/-R VRモード　AVCHD

1 再生中に[字幕]を押す
● 現在再生中の字幕を選ぶ

2 [▲ / ▼]でお好みの字幕を選ぶ
● [◄ / ►]で、現在の字幕設定と”切”を切り換えます。

1　日本語　/ 4

3 [字幕]を押し、設定を完了する

お知らせ
● ディスクの字幕に複数の言語または字幕スタイルが入っている場合にのみ有効です。
● ディスクによっては、字幕に複数の言語が入っていても**[字幕]**が働かず、ディスクメニュー上でのみ選択できる場合があります。操作方法については、ディスクの説明書をお読みください。
● 字幕や字幕スタイルが含まれていない場合は、”なし”を表示します。
● セカンダリー映像の再生中、セカンダリー映像の字幕がない場合を除いて、”Primary字幕”の設定はできません。

音声を切り換える

音声に複数の言語・音声フォーマットが記録されているBD、BDAV、DVD、DVD-VR、AVCREC、音楽用CD、AVCHDの再生中に、音声を切り換えることができます。また、ピクチャー・イン・ピクチャーのBDでは、インタラクティブオーディオやコメンタリー音声などの、セカンダリー音声を”Secondaryオーディオ”で設定することができます。

BD ビデオ

プライマリー音声（”Primaryオーディオ”）/ セカンダリー音声（”Secondaryオーディオ”）を選びます。

1 再生中に[音声]を押す
● 現在再生中の音声番号を表示します。

2 [▲ / ▼]で”Primaryオーディオ”または”Secondaryオーディオ”を選び、[決定]を押す

Primaryオーディオ

1	日本語	Dolby D	Multi-ch	/3

Secondaryオーディオ

2	英語	Dolby D+	Multi-ch	/3

”Primaryオーディオ”：プライマリー映像の音声を設定します。
”Secondaryオーディオ”：セカンダリー映像の音声を設定します。

3 [▲ / ▼]でお好みの音声を選ぶ

- "Secondaryオーディオ"では、[◀ / ▶]で現在の音声設定と"切"を切り換えます。

4 [音声]を押し、設定を完了する

BD BDAVモード　DVD ビデオ　DVD -RW/-R VRモード　DVD -RW/-R AVCRECモード　CD　AVCHD

1 再生中に[音声]を押す

- 現在再生中の音声番号を表示します。

2 [▲ / ▼]でお好みの音声を選ぶ

DVDビデオの場合：

	1	日本語	Dolby D	3/2.1ch	48k	/ 3

- 音楽用CDでは、以下の音声モードからお好みの音声モードを選択します。

"ステレオ"：左右のチャンネル両方の音声を出力します。
"L-ch"：左チャンネルの音声のみ出力します。
"R-ch"：右チャンネルの音声のみ出力します。

3 [音声]を押し、設定を完了する

お知らせ

- 音声が含まれていない場合は、"なし"を表示します。複数の音声が記録されていないディスクの再生時は、音声を切り換えることはできません。
- DTS-CD（5.1音楽ディスク）は、音声を切り換えることはできません。
- 二ヵ国語（二重音声）BDAV、DVD-VRまたはAVCRECでは、"主音声"、"副音声"または"主/副音声"に切り換えることができます。
- ディスクによっては、音声に複数の言語が入っていても**[音声]**が働かず、ディスクメニュー上でのみ選択できる場合があります。操作方法については、ディスクの説明書をお読みください。
- セカンダリー音声を楽しむためには、必ず"BD-HD音声設定"を"複合音声"に設定してください。（☞ 39ページ）
- セカンダリー映像が切になっている場合、セカンダリー音声は出力されません。（BDによっては、セカンダリー映像が切になっていてもセカンダリー音声のみ出力される場合があります。）
- 早見・早聞き再生中は、音声を切り換えることはできません。（☞ 35ページ）
- ディスクトレイを開けたり、再生中に電源プラグを抜くと音声の設定が解除され、初期設定に戻ります。

BD-HD音声設定を切り換える

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル音声が記録された、インタラクティブオーディオやコメンタリー音声などのセカンダリー音声を含むBDでそれらすべての音声を聴く場合や、プライマリー音声のみをオリジナルの高音質のまま出力したい場合など、お好みに応じた音声設定に切り換えることができます。

BD ビデオ

1 再生の停止中に[モード]を押す

- 現在の設定状態が表示されます。

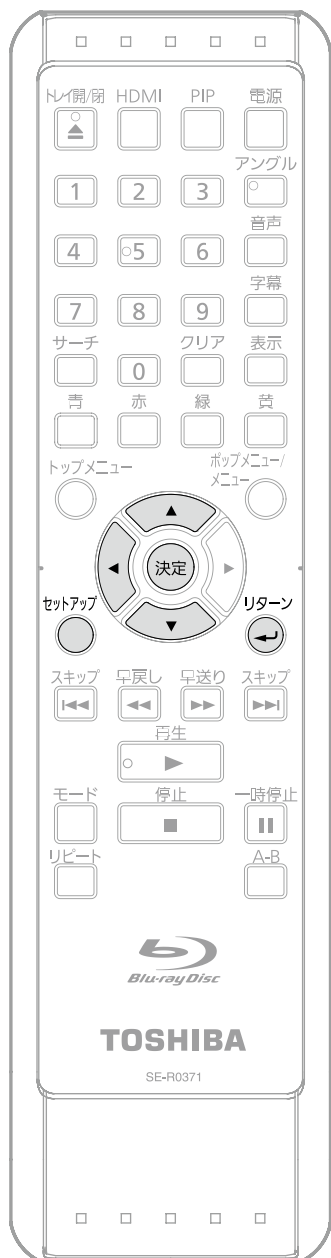
2 [▲ / ▼]で"複合音声"または"HD音声"を選ぶ

	BD-HD音声設定	複合音声

"複合音声"：インタラクティブオーディオ（ボタン操作音等）やセカンダリー音声（セカンダリー映像の音声）を含むBDを楽しむ場合に設定します。
"HD音声"：ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHD、DTS、DTS-HDなどの信号を高音質のままプライマリー音声のみ出力します。
インタラクティブオーディオやセカンダリー音声は出力されません。

3 [リターン ↩]を押し、設定を完了する

お知らせ

- セットアップメニューでも"BD-HD音声設定"を設定できます。（☞ 45ページ）
- 出力される音声の詳細については、"HDMI出力端子からの音声信号"（☞ 46ページ）または"デジタル音声出力端子（光/同軸）からの音声信号"（☞ 48ページ）をご覧ください。
- "複合音声"に設定していても、インタラクティブオーディオやセカンダリー音声が再生するBDに含まれていない場合は、プライマリー音声のみが出力されます。

初期設定操作のしかた（セットアップメニュー）

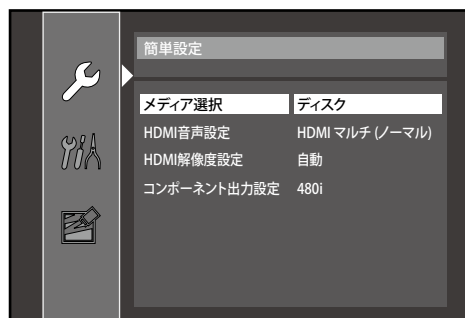
セットアップメニューでは、音声、映像、言語、その他の各種設定ができます。

簡単設定

よく使われる項目を”詳細設定”から抽出しています。

1 **再生の停止中に[セットアップ]を押す**

2 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で設定したい項目を選ぶ**

4 **項目によって、以下のうちどちらかの手順で設定値を選ぶ**

選択している項目の右側に ▶ が表示されていない場合：

繰り返し[決定]を押して設定値を切り換える

選択している項目の右側に ▶ が表示されている場合：

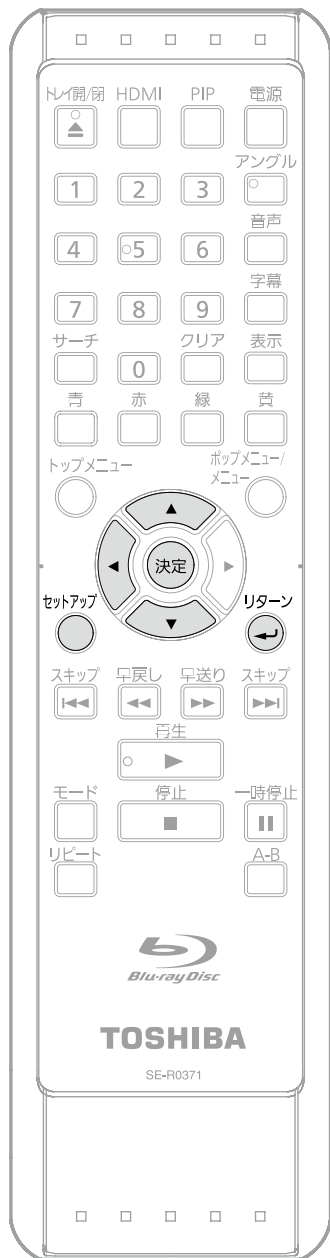
1）[決定]を押す

2）[▲ / ▼]で設定値を選び、[決定]を押す

- 1 つ前の画面に戻るには、**[◀]**または**[リターン ↩]**を押してください。

5 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- 再生中には設定変更はできません。また、本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。

詳細設定

" 詳細設定"には、本機で設定できるすべての項目が含まれています。

1 **再生の停止中に[セットアップ]を押す**

2 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で設定したい項目を選び、[決定]を押す**

: "再生設定" (☞ 42ページ)
: "映像出力設定" (☞ 43ページ)
: "音声出力設定" (☞ 45ページ)
: "視聴制限設定" (☞ 51ページ)
: "その他設定" (☞ 52ページ)

- "視聴制限設定"の手順については、☞ 51ページをご覧ください。

4 **[▲ / ▼]でさらに設定したい項目を選ぶ**

5 **項目によって、以下のうちどちらかの手順で設定値を選ぶ**

選択している項目の右側に ▶ が表示されていない場合：

繰り返し[決定]を押して設定値を切り換える

選択している項目の右側に ▶ が表示されている場合：

1) [決定]を押す

2) [▲ / ▼]で設定値を選び、[決定]を押す

- 1つ前の画面に戻るには、**[◀]**または**[リターン ↩]**を押してください。

6 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- 再生中には設定変更はできません。また、本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。

再生設定

- 操作方法については、"詳細設定"をご覧ください。(☞ 41ページ)
- が付いている項目は、"簡単設定" (☞ 40ページ)でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
音声言語設定 音声言語を設定します。	**オリジナル**	**日本語** **英語** **----**※
字幕言語設定 字幕言語を設定します。	**切**	**日本語** **英語** **----**※
ディスクメニュー言語設定 ディスクメニュー画面の言語を設定します。	**日本語**	**英語** **----**※

※ "----"を選択すると、言語コード入力画面が表示されます。
"言語コード一覧" (☞ 64ページ)を参照して、言語コードを入力してください。

- 字幕を表示させたくない場合は、"字幕言語設定"で"切"を選んでください。
ディスクによっては字幕表示を消すことができない場合もあります。

映像出力設定

- 操作方法については、"詳細設定"をご覧ください。(☞ 41ページ)
- が付いている項目は、"簡単設定" (☞ 40ページ) でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
TV画面選択 接続したテレビの画面サイズに応じて、視聴する映像サイズを設定します。	**16:9 ワイド** 16:9ワイドテレビで見るときに選びます。16:9ワイド映像を画面いっぱいに映します。	**4:3 パンスキャン** 4:3標準テレビで16:9ワイド映像を見るときに、上下方向を画面いっぱいに映し、左右方向を一部カットします。パンスキャン指定のないDVDビデオソフトはレターボックスで表示されます。
		4:3 レターボックス 4:3標準テレビで16:9ワイド映像を見るときに、左右方向を画面いっぱいに映し、上下方向に黒い帯を表示します。
HDMI解像度設定 接続したHDMI機器に応じて、HDMI解像度を設定します。	**自動** 接続したHDMI機器によって、HDMI映像解像度を自動で設定します。	**480p** 480プログレッシブで出力します。
		720p 720プログレッシブで出力します。
		1080i 1080インターレースで出力します。
		1080p 1080プログレッシブで出力します。
		1080p24 1080プログレッシブ24フレームで出力します。
HDMIディープカラー 色深度（ディープカラー）を拡張して出力するときに設定します。	**自動** 接続したHDMI機器がディープカラーに対応している場合、自動でHDMI出力端子からの映像信号をディープカラーで出力します。	**切** HDMI端子からの映像信号をディープカラーで出力しません。
コンポーネント出力設定 接続した機器が対応している映像解像度に応じて設定します。	**480i** 480インターレースで出力します。	**480p** 480プログレッシブで出力します。
		720p 720プログレッシブで出力します。
		1080i 1080インターレースで出力します。

設定項目	初期設定	その他の設定値
スチルモード※ 一時停止時の画質を設定します。	**オート** 表示する静止画の情報に応じて、”フィールド”または”フレーム”のどちらかで表示されます。	**フィールド** ”オート”に設定しても画像のブレが発生するときに設定します。”フィールド”を選択すると、情報量が少ないため、画像は少し荒くなりますが、ブレを生じません。
		フレーム 動きのない画像を特に高解像度で一時停止させたいときに設定します。”フレーム”を選択すると、画質は良くなりますが、２枚のフィールドを交互に出力させるため、画像にブレが生じることがあります。

※ テレビの１枚の画面のことを「フレーム」とよび、１枚の「フレーム」は「フィールド」とよばれる２枚の画面から作られています。”スチルモード”で”オート”を選択している場合、静止画によっては画像にブレを生じることがあります。

”HDMI解像度設定”と”コンポーネント出力設定”について

- 本機をHDMI DVI機器とHDMI-DVIケーブルで接続している場合、”HDMI解像度設定”を”自動”に設定していても”480p”で出力されます。
- 再生を行っているときに、”HDMI映像解像度”の設定を切り換えたり、入力を切り換えるなどの操作を行うと、音声・映像が一時途切れることがあります。
- BDおよびAVCHDの再生中はHDMI解像度を切り換えれません。再生を止めてから操作してください。
- お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応している場合は、HDMIケーブルを使用して接続し、”HDMI解像度設定”を”1080p24”または”オート”に設定すると、1080プログレッシブ24フレームとしてフィルム素材（１秒間に24フレームで撮影）を記録した高品質でより自然に近い映像を楽しむことができます。
- お持ちのテレビが1080プログレッシブ24フレームに対応していて”HDMI解像度設定”を”1080p24”または”オート”に設定している場合でも、ディスクが1080プログレッシブ24フレーム対応でない場合やAVCHDでは、24フレームの映像は60フレームで出力されます。
- ”HDMI解像度設定”や”コンポーネント出力設定”の設定後、テレビ画面の映像がまったくでない、または映像に悪い影響が生じるなどの症状がある場合は、本体前面の**[再生 ►]**を５秒以上押してください。自動的に初期設定に切り換わります。
- HDMIケーブルが接続されている場合、”コンポーネント出力設定”では、”HDMI解像度設定”で設定している解像度、または”480i”にのみ設定可能です。
- コンポーネント映像出力端子とHDMI出力端子からの出力解像度が違う場合や、”HDMI解像度設定”が”自動”に設定されている場合、”コンポーネント出力設定”は”480i”に切り換えられます。
- コピー禁止信号のあるディスクを再生する場合、”コンポーネント出力設定”を”720p”や”1080i”に設定していても、コンポーネント映像出力端子からは、”480p”が出力されます。
- コピー禁止信号のあるBDビデオでは、映像がHDMI出力端子からのみ出力され、その他の出力端子からは出力されない場合があります。
- 選択した出力解像度は接続した機器でも対応している必要があります。詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

音声出力設定

- 操作方法については、"詳細設定"をご覧ください。(☞ 41ページ)
- が付いている項目は、" 簡単設定" (☞ 40ページ) でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
BD-HD音声設定 インタラクティブオーディオやプライマリー音声、セカンダリー音声などが記録されたBDの再生時に、すべての音声を出力するか、プライマリー音声のみを出力するかを設定します。 (詳しくは、"BD-HD音声設定を切り換える" (☞ 39ページ) をご覧ください。)	**複合音声** インタラクティブオーディオやプライマリー音声、セカンダリー音声などをすべて出力します。	**HD音声** プライマリー音声のみを高音質で出力します。
HDMI音声設定 HDMI出力端子から出力される音声信号の音声フォーマットを設定します。 (詳しくは、"HDMI音声出力設定" (☞ 46ページ) および"HDMI出力端子からの音声信号" (☞ 46ページ) をご覧ください。)	**HDMIマルチ (ノーマル)** HDMI出力端子からマルチチャンネルのビットストリーム音声信号、またはLPCM音声信号を出力します。	**HDMIマルチ (LPCM)** HDMI出力端子からマルチチャンネルのLPCM音声信号を出力します。また、この設定にするとスピーカー設定が可能です。 (詳しくは、"スピーカー設定" (☞ 49ページ) をご覧ください。)
		音声ミュート HDMI出力端子からの音声信号の出力を停止し、デジタル音声出力端子からの回路に切り換えます。 (詳しくは、"デジタル音声出力設定" (☞ 47ページ) および"デジタル音声出力端子 (光/同軸) からの音声信号" (☞ 48ページ) をご覧ください。)
ダウンサンプリング LPCMで記録されたBDやDVDの再生時のデジタル音声出力を設定します。	**入** 96kHzより大きなサンプリング周波数の入力に対応していないAVアンプ等にデジタル接続している場合に設定にします。LPCMの信号を48kHzに変換して出力します。	**切** 著作権保護のないLPCMの信号が記録されたBDまたはDVDの再生時、192kHzまでの2ch音声については、変換せずにそのまま出力します。
オーディオDレンジ ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスまたはドルビーTrueHDで記録された音声の場合にのみ有効です。 音量範囲を圧縮することで夜間の出力を抑制しながら音量が低い部分の音域レベルを上げることができます。	**自動** ドルビーTrueHDの再生中に、本機がディスクのオーディオDレンジ情報を認識し、自動でオーディオDレンジ設定を"入"または"切"に設定します。ドルビーTrueHD以外を再生した場合では"切"と同じ動作をします。	**入** 記録された音声の強弱の幅を調整します。 **切** 記録されたオリジナル音源で出力します。

HDMI音声出力設定

HDMIケーブルを接続しているテレビや機器のシステムに合わせ、以下を参照して"HDMI音声設定" (☞ 45ページ)で設定を行ってください。また、通常は"HDMIマルチ(ノーマル)"に設定していただくと、接続している機器に合わせて本機が自動的に最適の音声フォーマットを選んで出力します。

接続する機器	"HDMI音声設定"	
DTSやDTS-HD、ドルビーデジタルやドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDのデコードに対応している機器	"HDMIマルチ(ノーマル)"	DTSやドルビーデジタルビットストリーム信号が接続先のテレビやAVアンプなどで変換されます。(※HDMI音声のスピーカー設定はできません。接続したアンプなどのAV機器側でスピーカーの設定を行ってください。)
3ch以上の音声入力に対応している機器(※DTS、DTS-HD、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスやドルビーTrueHD には非対応)	"HDMIマルチ(LPCM)"	マルチチャンネルのLPCM音声をHDMI端子からの音声出力で楽しむことができます。(この設定にするとスピーカー設定が可能です。詳しくは、"スピーカー設定" (☞ 49ページ)をご覧ください。)
映像信号をHDMIケーブルを経由して出力し、音声信号をデジタル音声入力端子付AVアンプなどから出力	"音声ミュート"	HDMI出力端子からの音声出力を停止し、デジタル音声出力端子(光/同軸)からドルビーデジタルやDTSの音声信号を"デジタル出力"設定で選択された"ビットストリーム"または"LPCM"で出力します。("デジタル出力"設定については、"デジタル音声出力"設定(☞ 47ページ)および"デジタル音声出力端子(光/同軸)からの音声信号" (☞ 48ページ)をご覧ください。)

HDMI出力端子からの音声信号

メディア	音楽記録方式	"HDMI音声設定"			
		"HDMIマルチ(ノーマル)"		"HDMIマルチ(LPCM)"	
		"BD-HD音声設定"を"HD音声"に設定時	"BD-HD音声設定"を"複合音声"に設定時	"BD-HD音声設定"を"HD音声"に設定時	"BD-HD音声設定"を"複合音声"に設定時
BDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	マルチLPCM	マルチLPCM
	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタル*2	マルチLPCM*1	マルチLPCM*2
	ドルビーTrueHD	ドルビーTrueHD	ドルビーデジタル*4	マルチLPCM*3	マルチLPCM*4
	DTS	DTS	DTS	マルチLPCM*6	マルチLPCM*6
	DTS-HD	DTS-HD	DTS*5	マルチLPCM*1,6	マルチLPCM*5,6
	AAC	AAC	AAC	マルチLPCM	マルチLPCM
	LPCM	マルチLPCM	マルチLPCM	マルチLPCM	マルチLPCM
DVDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		マルチLPCM	
	DTS	DTS		マルチLPCM	
	LPCM	2ch LPCM		2ch LPCM	
AVCREC	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		マルチLPCM	
	AAC※	AAC		マルチLPCM	
	LPCM	2ch LPCM		マルチLPCM	
AVCHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		マルチLPCM	
	LPCM	2ch LPCM		マルチLPCM	

<table>
<tr><th rowspan="3">メディア</th><th rowspan="3">音楽記録方式</th><th colspan="4">"HDMI音声設定"</th></tr>
<tr><th colspan="2">"HDMIマルチ(ノーマル)"</th><th colspan="2">"HDMIマルチ(LPCM)"</th></tr>
<tr><th>"BD-HD音声設定"を"HD音声"に設定時</th><th>"BD-HD音声設定"を"複合音声"に設定時</th><th>"BD-HD音声設定"を"HD音声"に設定時</th><th>"BD-HD音声設定"を"複合音声"に設定時</th></tr>
<tr><td colspan="2">音楽用CD、MP3、
Windows Media™ Audio</td><td colspan="2">2ch LPCM</td><td colspan="2">2ch LPCM</td></tr>
<tr><td colspan="2">DTS-CD</td><td colspan="2">DTS</td><td colspan="2">マルチLPCM</td></tr>
</table>

*1 : フルデコードされます。
*2 : インデペンデントサブストリームのみデコードされます。
*3 : ドルビーTrueHDストリームでデコードされます。
*4 : ドルビーデジタルサブストリームのみデコードされます。
*5 : コアサブストリームのみデコードされます。
*6 : マルチチャンネルの音声は7.1チャンネルとしてデコードされますが、出力する音声のチャンネル数は接続しているスピーカーの数により変わります。

※ デジタル放送で使用されるAAC音声の再生は可能ですが、パソコンなどで記録されたAAC音声の再生はできません。

- 接続している機器がHDMIビットストリームに対応していない場合"HDMI音声設定"を"HDMIマルチ(ノーマル)"に設定していても、機器の性能に応じてマルチLPCM、またはダウンミックス2ch LPCMで出力されます。
- 再生するBDビデオにセカンダリー音声やインタラクティブオーディオがない場合は、"BD-HD音声設定"を"複合音声"に設定していても、出力音声は"HD音声"と同様になります。

お知らせ

- HDMI端子からの音声信号(サンプリング周波数、チャンネル数、ビット長など)は、接続する機器により制限されることがあります。アナログ音声も同様に制限されます。
- プロジェクターなどのHDMI対応モニターによっては、音声信号入力に対応していない場合があります。そのような機器と本機を接続した場合は、HDMI出力端子から音声信号は出力されません。
- 再生を行っているときに、"HDMI映像解像度"の設定を切り換えたり、入力を切り換えるなどの操作を行うと、音声・映像が一時途切れることがあります。

デジタル音声出力設定

"HDMI音声設定"で"音声ミュート"に設定すると、HDMI出力端子からの音声信号の出力を停止し、デジタル音声出力端子からの回路に切り換えます。
デジタル音声出力端子から出力される音声の設定は、以下を参照して行ってください。

" 簡単設定" → "HDMI音声設定" → "音声ミュート" → "デジタル出力"

設定項目	初期設定	その他の設定値
デジタル出力 "HDMI音声設定"(☞ 45ページ)で"音声ミュート"の選択時にデジタル音声出力端子から出力される音声を設定します。 ※HDMIケーブルで音声出力を行っている場合は、この設定は無効になります。	**ビットストリーム** ディスクに収録されたドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスまたはドルビーTrueHDのドルビーデジタル部分のみ、またはDTS-HDのDTS部分のみをビットストリーム出力します。	**LPCM** ディスクに収録されたドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビーTrueHDまたは、DTS、DTS-HDをLPCMに変換して出力します。

デジタル音声出力端子（光/同軸）からの音声信号

″HDMI音声設定″で″音声ミュート″に設定している場合に、以下の通りの音声がデジタル音声出力端子 （光/同軸）から出力されます。

メディア	音楽記録方式	″デジタル出力″			
		″ビットストリーム″		″LPCM″	
		″BD-HD音声設定″を″HD音声″に設定時	″BD-HD音声設定″を″複合音声″に設定時	″BD-HD音声設定″を″HD音声″に設定時	″BD-HD音声設定″を″複合音声″に設定時
BDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	ドルビーデジタルプラス	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	ドルビーTrueHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	DTS	DTS	DTS	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	DTS-HD	DTS	DTS	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	AAC	AAC	AAC	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
	LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM	ダウンミックス 2ch LPCM
DVDビデオ	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		ダウンミックス2ch LPCM	
	DTS	DTS		ダウンミックス2ch LPCM	
	LPCM	2ch LPCM		2ch LPCM	
AVCREC	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		ダウンミックス2ch LPCM	
	AAC※	AAC		ダウンミックス2ch LPCM	
	LPCM	ダウンミックス2ch LPCM		ダウンミックス2ch LPCM	
AVCHD	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル		ダウンミックス2ch LPCM	
	LPCM	ダウンミックス2ch LPCM		ダウンミックス2ch LPCM	
音楽用CD、MP3、Windows Media™ Audio		2ch LPCM		2ch LPCM	
DTS-CD		DTS		ダウンミックス2ch LPCM	

※ デジタル放送で使用されるAAC音声の再生は可能ですが、パソコンなどで記録されたAAC音声の再生はできません。

- 再生するBDビデオにセカンダリー音声やインタラクティブオーディオがない場合は、″BD-HD音声設定″を″複合音声″に設定していても、出力音声は″HD音声″と同様になります。

お知らせ

- 上記の各信号は、″HDMI音声設定″を″音声ミュート″に設定しているときにのみ有効です。
- HDMI出力端子から音声信号が出力されているときに、LPCM信号をデジタル音声出力端子（光/同軸）から出力するには、″HDMI音声設定″を″HDMI マルチ（LPCM）″に設定してください。

スピーカー設定

"HDMI音声設定"で"HDMIマルチ（LPCM）"に設定すると、スピーカー設定が可能です。
7.1チャンネルや5.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンド音声をお楽しみいただくには、下記のスピーカー配置例を参照してお使いのスピーカーを配置し、お好みに応じてスピーカー設定を行ってください。
（オーディオ機器との接続については、"HDMI入力端子付きオーディオ機器に接続する場合"（☞ 18ページ）をご覧ください。）

"HDMI音声設定"で"HDMIマルチ（LPCM）"を選択したあとの操作方法

1 **[▲ / ▼]で設定したい項目を選び、[決定]を押す**

2 **[▲ / ▼]でさらに設定したい項目を選ぶ**
- 1つ前の画面に戻るには、**[リターン ↩]**を押してください。

3 **[◄ / ►]で設定値を選ぶ**
- "スピーカー設定"の設定項目、"テストトーン"または"初期化"で設定値を選択する場合は、それぞれ以下の手順で行います。

"スピーカー設定"の設定項目の場合：

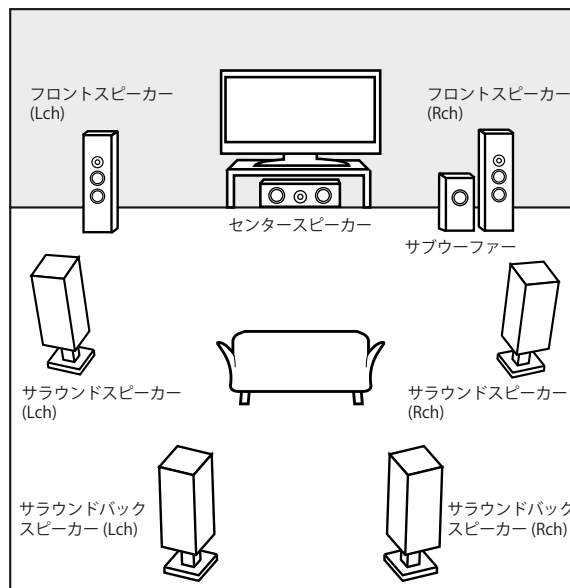
[決定]を繰り返し押す

"テストトーン"の場合：

[◄ / ►]で"切"、"手動"または"自動"を選び、[決定]を押す
- "手動"を選んだ場合は、**[▲ / ▼]**で設定したいスピーカーを選び、**[◄ / ►]**でボリュームを調節します。
- "自動"を選んだ場合は、**[◄ / ►]**でテストトーンを出力しているスピーカーの音量を調節します。
- テストトーンを停止させるには、**[リターン ↩]**を押してください。

"初期化"の場合：

[決定]を押す

4 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

基本的な7.1チャンネルサラウンドシステムの配置例

"🔧 簡単設定" → "HDMI音声設定" → "HDMIマルチ（LPCM）"
"詳細設定" → "音声出力設定" → "HDMI音声設定" → "HDMIマルチ（LPCM）"

設定項目		初期設定	その他の設定値
スピーカー設定 お使いのスピーカーのサイズや性能に合わせた設定が可能です。 低音域出力の強い大型スピーカーは"大"に、低音域出力の弱い小型スピーカーは"小"に設定します。 サブウーファーの設定は変更できません。	**フロント**	**大**	**小**
	センター	**大**	**小**
	サブウーファー	**入**	**-**
	サラウンド	**大**	**小**
	サラウンドバック	**大**	**小**
	初期化	設定したスピーカー設定をすべて初期設定に戻します。	

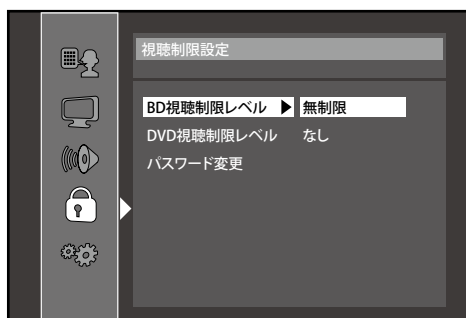
"🔧 簡単設定" → "HDMI音声設定" → "HDMIマルチ(LPCM)"
"詳細設定" → "音声出力設定" → "HDMI音声設定" → "HDMIマルチ(LPCM)"

設定項目		初期設定	その他の設定値
チャンネルレベル お使いのスピーカーから出力される音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカー音量の微調整をします。	**テストトーン** テストトーンを出力し、それぞれのスピーカー音量を微調整します。	**切** テストトーンは出力しません。	**手動** スピーカーから出力されるテストトーンのボリュームを調節しながら、チャンネルレベルを個別に選んで設定します。
			自動 接続しているスピーカーから、自動でテストトーンが出力されます。ボリュームの調節は手動で行います。
	フロント Lch	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	センター	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	サブウーファー	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	フロント Rch	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	サラウンド Rch	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	サラウンドバック Rch	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	サラウンドバック Lch	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	サラウンド Lch	**0dB**	**0dB 〜 -12dB**
	初期化	設定したチャンネルレベル設定をすべて初期設定に戻します。	
遅延時間 リスニングポジションに応じて各スピーカーやサブウーファーから出力される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	**距離**	**メートル**	**フィート**
	フロント	**約3.6m**(12ft)	**0m〜約18m**(0ft〜60ft)
	センター	**約3.6m**(12ft)	**0m〜約18m**(0ft〜60ft)
	サラウンド	**約3.0m**(10ft)	**0m〜約18m**(0ft〜60ft)
	サラウンドバック	**約3.0m**(10ft)	**0m〜約18m**(0ft〜60ft)
	初期化	設定した遅延時間設定をすべて初期設定に戻します。	

お知らせ

- 本機や接続機器の状態において利用できない項目は灰色で表示され、選択することができません。
- "スピーカー設定"のうち、1つの項目の設定値を変えると、各項目に連動してその他の設定値も自動的に変更されます。
  【例】"フロント"を"小"にした場合、"センター"や"サラウンド"、"サラウンドバック"は "大"に設定できなくなります。)
- "遅延時間"の"フロント"、"サラウンド"、"サラウンドバック"の距離の差は4.5m(15ft)までの範囲で調整できます。また、"フロント"と"センター"の距離の差は1.5m(5ft)までの範囲で調整できます。
- "遅延時間"の"センター"、"サラウンド"、"サラウンドバック"は"フロント"の設定値を超えて設定することはできません。
- "遅延時間"の"センター"、"サラウンド"、"サラウンドバック"の設定値は自動的に"フロント"と同じ値に設定されます。
  【例】"フロント"を18m(60ft)にした場合、"センター"、"サラウンド"、"サラウンドバック"も18m(60ft)に設定されます。)

視聴制限設定

パスワード設定することでお子様などに見せたくない成人向けのBDビデオ、DVDビデオの再生を制限（禁止）します。設定したレーティングを超えるディスクを再生した場合は再生を停止し、再生を行うにはパスワードを入力し、設定の解除が必要となります。

1 **[▲ / ▼]で 🔒 を選び、[決定]を押す**

2 **数字ボタン[0〜9]で４桁のパスワードを入力する**

初めて視聴制限を設定する場合：

4737以外の４桁の数字を数字ボタン[0〜9]で入力し、パスワードを設定する
（※この数字がパスワードとして設定されますので、忘れないように必ずメモを取っておいてください。）

- パスワードをお忘れの場合は、数字ボタンの**[4]**、**[7]**、**[3]**、**[7]**を押してください。
  パスワードがリセットされ、視聴制限設定は初期設定に戻ります。
- パスワードの入力を間違えた場合は、**[クリア]**を押すと再入力できます。

3 **[▲ / ▼]で"BD視聴制限レベル"、"DVD視聴制限レベル"または"パスワード変更"を選び、[決定]を押す**

"BD視聴制限レベル"の場合

1 **[▲ / ▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す**

"無制限"：すべてのディスクの視聴ができます。

"視聴可能年齢設定"："視聴可能年齢設定"を選ぶと年齢入力画面が表示されます。
数字ボタン**[0〜9]**で設定したい年齢を入力してください。
【例】17歳以下の視聴制限があるBDビデオを再生不可にする場合、数字ボタンの**[0]**、**[1]**、**[7]**を押します。

2 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

"DVD視聴制限レベル"の場合

1 **[▲ / ▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す**

- "DVD視聴制限レベル"の設定値は、以下の表をご覧ください。

DVD レーティング

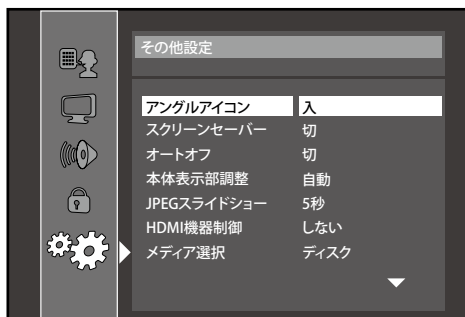
なし　：制限なく、すべてのディスクの視聴ができます。
レベル8：年齢に関係なく視聴ができます。
レベル7：18歳未満のお子様は視聴できません。
レベル6：18歳未満のお子様が視聴するには保護者の指導が必要です。
レベル5：保護者同伴での視聴を推奨します。
レベル4：13歳未満のお子様の視聴には不適切なコンテンツが含まれています。
レベル3：保護者の方の判断による視聴を提案します。
レベル2：一般的に視聴できる内容です。
レベル1：お子様が視聴されても問題のない内容です。

2 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

"パスワード変更"の場合

1 **数字ボタン[0〜9]で４桁の新しいパスワードを入力し、[決定]を押す**

2 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

その他設定

- 操作方法については、"詳細設定"をご覧ください。（☞ 41ページ）
- が付いている項目は、"簡単設定"（☞ 40ページ）でも設定することができます。

設定項目	初期設定	その他の設定値
アングルアイコン マルチアングル機能の付いたBD、DVDの再生中、カメラアングルを切り換えられる場面でアングルアイコンを表示するように設定します。	**入** アングルアイコンを表示します。	**切** アングルアイコンを表示しません。
スクリーンセーバー スクリーン（テレビ画面）に同じ映像を表示したまま放置するとき、テレビ画面の焼き付きを防ぐための設定です。	**切** 操作をしない状態がつづいても、スクリーンセーバーは実行されません。	**入** 操作をしない状態が約５分つづくと、自動的にスクリーンセーバーが働きます。
オートオフ 一定時間、本機が無操作の状態にあるとき本機の電源を自動的に切るように変更できます。	**切** 操作をしない状態がつづいても、本機の電源は自動的に切れません。	**入** 無操作状態が約30分つづくと、自動的に本機の電源を切ります。
本体表示部調整 本体表示パネルの照度を設定できます。	**自動** 再生中は暗く、停止中は明るくなります。	**明** 表示パネルを明るくします。 **暗** 表示パネルを暗くします。
JPEGスライドショー JPEGファイルの表示間隔（時間）を設定します。	**5秒** JPEGファイルの表示時間を約５秒ごとに切り換えます。	**10秒** JPEGファイルの表示時間を約10秒ごとに切り換えます。
HDMI機器制御 HDMIケーブルで当社製REGZAシリーズ（テレビ）と本機を接続している場合、本機の動作とテレビの動作を連動して行える「レグザリンク機能」を使用することができます。詳しくは、"HDMI機器制御（レグザリンク機能について）"（☞ 53ページ）をご覧ください。	**しない** HDMI機器制御を使用しません。	**する** 本機と当社製REGZAシリーズ（テレビ）を連動して操作することができます。
メディア選択 再生するメディア（ディスクまたはSDカード）を選択します。	**ディスク** BD、DVD、音楽用CDなどディスクの再生を行うときに選択します。	**SDカード** SDカードからの再生を行うときに選択します。

<table>
<tr><th>設定項目</th><th colspan="2">設定項目/初期設定</th><th>詳細/その他の設定値</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ネットワーク設定
各設定の詳細については、”ネットワーク設定”（☞ 54ページ）をご覧ください。</td><td colspan="2">接続テスト</td><td>ネットワーク接続が正しくできているか確認します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">接続設定（簡単設定）</td><td>ネットワーク接続設定を一括して初期設定に簡単設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">接続設定（詳細設定）</td><td>ネットワーク接続設定を、お使いのネットワーク環境の必要に応じて詳細に設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">接続無効</td><td>ネットワーク接続を無効にします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">システム・バージョンアップ</td><td colspan="2">現在のバージョン</td><td>現在の本機のファームウェアを表示します。</td></tr>
<tr><td>ディスクアップデート</td><td>いいえ
ディスクアップデートを実行しません。</td><td>はい
ディスクアップデートを実行し、本機のファームウェアを更新します。</td></tr>
</table>

HDMI機器制御（レグザリンク機能について）

当社製REGZAシリーズ（テレビ）と本機をHDMI端子を使用して接続し、”HDMI機器制御”の設定を”する”に設定している場合、本機の動作とテレビの動作を連動して行える「レグザリンク機能」が使えます。（レグザリンク対応品に限ります。）
レグザリンク機能では、以下の操作が可能になります。

ワンタッチプレイ

以下の本機リモコンボタンを押すと、テレビの電源が入り、入力切換が自動的に切り換わります。

- **[再生 ▶]**
- **[トップメニュー]**または**[ポップメニュー/メニュー]**（※ディスク挿入時に限ります。）

自動的に電源を切る

本機の**[電源]**を２秒以上長押しすると、テレビと本機の電源がオフになります。また、テレビの電源を切ると本機の電源も自動的にオフになります。

テレビのリモコンで本機を操作する

テレビのリモコンで本機を操作できます。詳細については、テレビの取扱説明書をお読みください。

- この機能は、お使いのテレビによっては正しく動作しない場合があります。
- お使いのテレビのリモコンによって、操作できる内容が変わります。

ネットワーク設定

BD-Live機能付きのディスクをお楽しみいただくには、本機をインターネットに接続し、以下のネットワーク設定を行ってください。

- 接続方法については、"ネットワーク接続"(☞ 19ページ)をご覧ください。

接続テスト

本機をLANケーブルで接続したあとや、IPアドレスやDNS設定を変更したあとには接続テストを行い、ネットワークに接続できるかを確認してください。

1 **再生の停止中に[セットアップ]を押す**

2 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

4 **[▲ / ▼]で"ネットワーク設定"を選び、[決定]を押す**

5 **[▲ / ▼]で"接続テスト"を選び、[決定]を押す**

- 接続テストが始まり、完了後にテスト結果が表示されます。
  "成功" : ネットワーク接続が完了し、使用できる状態です。
  "失敗" : 接続と設定を確認してください。
- テスト結果表示中に**[決定]**を押すと、設定値のリストが表示されます。

6 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- 接続テストに成功した場合、ネットワーク接続は正常にお使いいただける状態になっています。その他のネットワーク接続設定を行う必要はありません。
- 接続テストに失敗した場合、本機のMACアドレスをお使いのルーター側で設定が必要な場合があります。本機のMACアドレスは、"接続設定(詳細設定)"画面の一番下で確認できます。詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください。
- "ネットワーク設定"を"接続無効"(☞ 57ページ)に設定している場合、"接続テスト"を実行できません。

接続設定(簡単設定)

ネットワーク接続設定は、それぞれ下記の通り初期設定されています。(ほとんどの場合、初期設定のままで接続が可能です。初期設定で接続ができない場合は、"接続設定(詳細設定)"(☞ 55ページ)で、必要な設定を行ってください。)

"IPアドレス自動取得" : する
"DNS-IP自動取得" : する
"プロキシ設定" : しない
"接続速度設定" : 自動
"BD-Live接続設定" : 有効

- 接続設定を初期設定に戻したいときは、下記の手順で設定を行ってください。

1 **"接続テスト"(☞ 54ページ)の手順 1 ~ 4 を行う**

2 **[▲ / ▼]で"接続設定(簡単設定)"を選び、[決定]を押す**

- 接続テストが始まり、完了後にテスト結果が表示されます。
  "成功" : ネットワーク接続が完了し、使用できる状態です。
  "失敗" : 接続と設定を確認してください。
- テスト結果表示中に**[決定]**を押すと、設定値のリストが表示されます。

3 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- "BD-Live接続設定"は、上記の手順にしたがっても初期値に戻りません。"BD-Live接続設定"の設定の変更については、☞ 57ページ をご覧ください。

接続設定（詳細設定）

お使いのネットワーク環境により、詳細なネットワーク設定が必要なときは、必要に応じて設定を変更してください。

IPアドレス自動取得

IPアドレスは、通常はルーターが自動で割り当てるので、設定の必要はありません。お使いのルーターにDHCPサーバー機能がないなど、自動でIPアドレスが割り当てられない場合は、下記の手順で設定してください。

1 再生の停止中に[セットアップ]を押す

2 [▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す

3 [▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す

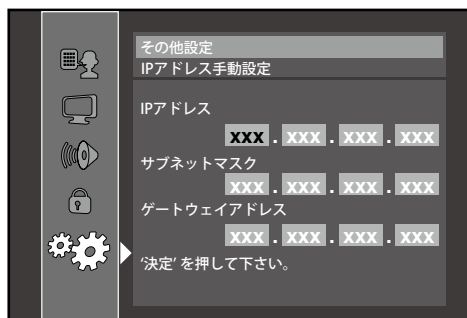
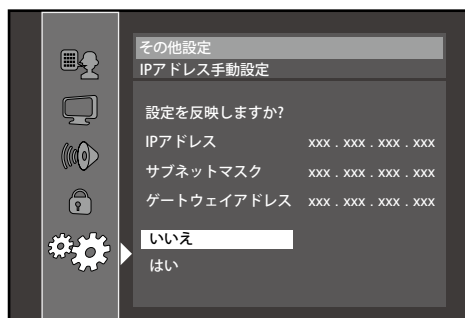
4 [▲ / ▼]で"ネットワーク設定"を選び、[決定]を押す

5 [▲ / ▼]で"接続設定（詳細設定）"を選び、[決定]を押す

6 [▲ / ▼]で"IPアドレス自動取得"を選ぶ

7 [決定]を繰り返し押し、"しない"を選ぶ

8 [▲ / ▼]で"IPアドレス"を選び、[決定]を押す

- IPアドレス入力画面が表示されます。
- **[▲ / ▼ / ◀ / ▶]**と数字ボタン**[0～9]**で"IPアドレス"、"サブネットマスク"、"ゲートウェイアドレス"を入力してください。
- "IPアドレス"は、パソコンを確認してパソコンと違った値を入力してください。
  "サブネットマスク"、"ゲートウェイアドレス"には、それぞれパソコンと同じ値を入力してください。

- 入力完了後、**[決定]**を押すと確認画面が表示されます。**[▲ / ▼]**で"はい"を選び、**[決定]**を押してください。

9 [セットアップ]を押し、設定を完了する

DNS-IP自動取得

通常は設定する必要はありませんが、お使いのルーターにDHCPサーバー機能がないなど、手動でプライマリDNSとセカンダリDNSを設定する必要がある場合は、下記の手順で設定してください。

1 "IPアドレス自動取得"（☞ 55ページ）の手順 1 ～ 5 を行う

2 [▲ / ▼]で"DNS-IP自動取得"を選ぶ

3 [決定]を繰り返し押し、"しない"を選ぶ

4 [▲ / ▼]で"プライマリDNS"を選び、[決定]を押す

- DNS入力画面が表示されます。
  [▲ / ▼ / ◀ / ▶]と数字ボタン**[0～9]**で"プライマリDNS"、"セカンダリDNS"を入力してください。
- パソコンを確認し、パソコンの優先DNSサーバーと代替DNSサーバーと同じ値を、それぞれ"プライマリDNS"と"セカンダリDNS"に入力してください。

● 入力完了後、**[決定]**を押すと確認画面が表示されます。**[▲ / ▼]**で"はい"を選び、**[決定]**を押してください。

5 [セットアップ]を押し、設定を完了する

プロキシ設定

通常は設定する必要はありませんが、お使いのインターネットプロバイダーから指示がある場合は、以下の手順で設定してください。

1 "IPアドレス自動取得"(☞ 55ページ)の手順 1 ～ 5 を行う

2 [▲ / ▼]で"プロシキ設定"を選ぶ

3 [決定]を繰り返し押し、"する"を選ぶ

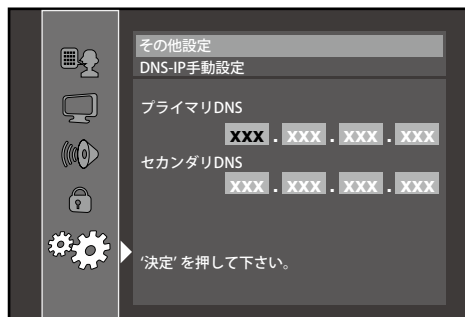
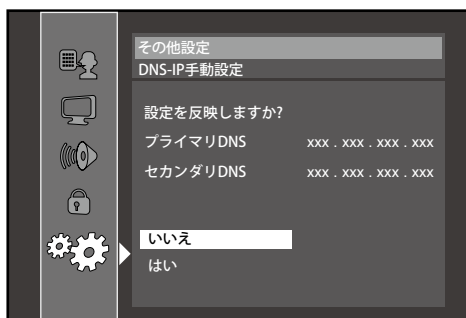
● "プロキシアドレス"と"プロキシポート番号"をそれぞれ以下の手順で入力してください。

"プロキシアドレス"

1 **[▲ / ▼]で"プロキシアドレス"を選び、[決定]を押す**

● 入力画面が表示されます。

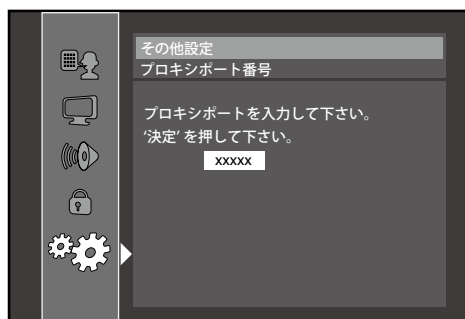
2 **下記のボタンで"プロキシアドレス"を入力する**

[▲ / ▼ / ◀ / ▶] : 選択箇所の移動
数字ボタン**[0～9]** : 数字の入力
[決定] : 選択されている数字/ 文字の入力
[青] : 入力した数字/文字を消す
[赤] : 入力したすべての数字/文字を消す
[緑] : 入力する文字の切り替え (abc→ABC→@!?)
[黄] : 入力した数字/文字を決定する

● 入力完了後、**[黄]**を押すと確認画面が表示されます。**[▲ / ▼]**で"はい"を選び**[決定]**を押すと、"プロキシ設定"の画面に戻ります。

"プロキシポート番号"

1 **[▲ / ▼]で"プロキシポート番号"を選び、[決定]を押す**

● 入力画面が表示されます。

2 **数字ボタン[0～9]で"プロキシポート番号"を入力する**

● 入力完了後、**[決定]**を押します。

4 [セットアップ]を押し、設定を完了する

”IPアドレス自動取得”と”DNS-IP自動取得”の手動設定について

- 0～255までの数字を入力してください。255より大きい数字を入力した場合、自動的に255として入力されます。
- 手動で入力した値は、設定を”する”に変更しても保存されます。
- 間違った数字を入力した場合は、**[クリア]**を押してください。（自動的に”0”に戻ります。）
- 1つのセル内に1桁または2桁の数字を入力し、次のセルに移動するときは、**[▶]**を押してください。
- ”IPアドレス”、”ゲートウェイアドレス”、または”プライマリDNS”で入力した値が初期設定の値と同じ場合は、”IPアドレス自動取得”は”する”に設定されます。
- ”IPアドレス自動取得”が”しない”に設定されている場合、”DNS-IP自動取得”も自動的に”しない”に設定されます。また、”IPアドレス自動取得”が”する”に設定されている場合は、”DNS-IP自動取得”は”する”または”しない”のどちらにも設定できます。

”プロキシ設定”について

- プロキシポートでは、0～65535までの数字を入力してください。65535より大きい数字を入力した場合、自動的に65535として入力されます。
- お使いのネットワーク環境によっては、”プロキシポート番号”で設定したポートが使用できない場合もあります。

接続速度設定

通常は設定する必要はありませんが、接続するネットワークの環境に合わせて設定が必要な場合は、以下の手順で設定してください。

1 **”IPアドレス自動取得”（☞ 55ページ）の手順1～5を行う**

2 **[▲ / ▼]で”接続速度設定”を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す**

”自動”：お使いのネットワーク環境に合わせて、自動で接続速度を設定します。

”10BASE半二重”：接続速度を”10BASE半二重”に設定します。

”10BASE全二重”：接続速度を”10BASE全二重”に設定します。

”100BASE半二重”：接続速度を”100BASE半二重”に設定します。

”100BASE全二重”：接続速度を”100BASE全二重”に設定します。

4 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- ネットワーク環境に合わせた接続速度を設定してください。
- お使いの機器によっては、”接続速度設定”を変更するとネットワーク接続ができなくなる場合があります。

BD-Live接続設定

BD-Live機能で使用するインターネットアクセスを制限できます。

1 **”IPアドレス自動取得”（☞ 55ページ）の手順1～5を行う**

2 **[▲ / ▼]で”BD-Live接続設定”を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]でお好みの設定を選び、[決定]を押す**

”有効”：BD-Liveコンテンツからのすべてのインターネットアクセスを許可します。

”有効（制限つき）”：証明書をもつBD-Liveコンテンツからのインターネットアクセス のみ許可します。

”無効”：BD-Liveコンテンツからのすべてのインターネットアクセスを禁止します。

4 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

接続無効

すべてのネットワーク接続を無効にします。

1 **”IPアドレス自動取得”（☞ 55ページ）の手順1～4を行う**

2 **[▲ / ▼]で”接続無効”を選び、[決定]を押す**

3 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- ネットワーク接続を再度有効にするには、”ネットワーク設定”を”接続設定（簡単設定）”か”接続設定（詳細設定）”に設定してください。

システム・バージョンアップ

現在のバージョン

本機の現在のファームウェアのバージョンを確認できます。

1 **再生の停止中に[セットアップ]を押す**

2 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

4 **[▲ / ▼]で"システム・バージョンアップ"を選び、[決定]を押す**

5 **[▲ / ▼]で"現在のバージョン"を選び、[決定]を押す**

- 現在のファームウェアのバージョンが表示されます。

6 **[決定]または[リターン ↩]を押し、設定を完了する**

お知らせ

- 最新のファームウェアのダウンロードは、http://www3.toshiba.co.jp/hdd-dvd/support/index_j.htmlで行ってください。

ディスクアップデート

インターネットでダウンロードした最新のファームウェアを書き込んだディスクを使用し、本機のファームウェアのバージョンをアップデートします。

1 **"現在のバージョン"(☞ 58ページ)の手順1～4を行う**

2 **[▲ / ▼]で"ディスクアップデート"を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で"はい"を選び、[決定]を押す**

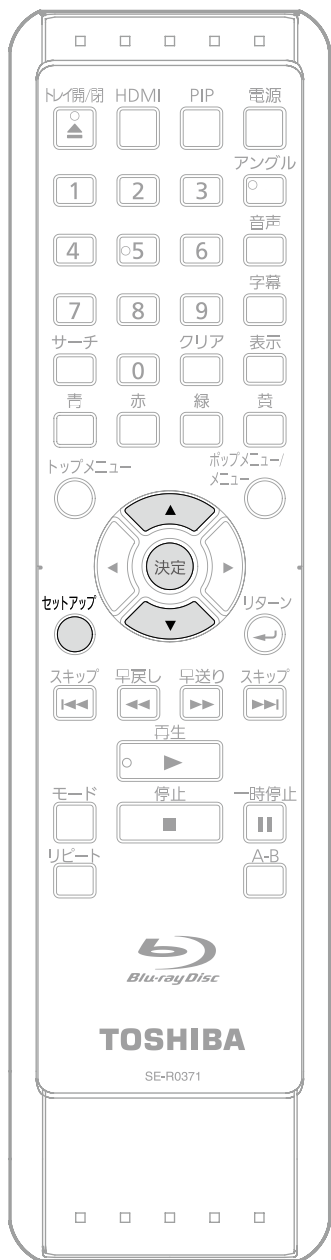
- ディスクトレイが自動的に開きます。

4 **最新のファームウェアを書き込んだディスクをディスクトレイに置き、[トレイ開/閉 ▲]を押す**

5 **確認画面が表示されます。[▲ / ▼]で"はい"を選び、[決定]を押す**

- ファームウェアのアップデートを開始します。
- アップデートが完了するまで、数分かかることがあります。本体表示部に"100%"と表示されるまでお待ちください。
- アップデート完了後、本機は自動的に再起動しディスクを排出します。

お知らせ

- 現在のファームウェアのバージョンは、"現在のバージョン"(☞ 58ページ)で確認できます。
- "ディスクアップデート"実行中は、電源コードを抜かないでください。
- ファームウェアをアップデートしても、すべての設定内容は変わりません。

初期化

本機の設定を初期設定に戻すときや、SDカードのフォーマット（初期化）などを行います。

1 **再生の停止中に[セットアップ]を押す**

2 **[▲ / ▼]で を選び、[決定]を押す**

3 **[▲ / ▼]で設定したい項目を選び、[決定]を押す**

"セットアップ"
"メディア選択"、"視聴制限設定"、"ネットワーク設定"を除くすべての本機設定を初期設定に戻します。

"SDカードフォーマット"
本機に挿入しているSDカードをフォーマットします。

"BD-ROMデータ消去（本機）"
BDビデオの再生時に使用されるメモリーデータ（本機）を消去します。

"BD-ROMデータ消去（SDカード）"
BDビデオの再生時に使用されるメモリーデータ（SDカード）を消去します。

"ネットワーク設定"
ネットワーク設定をすべて初期設定に戻します。

4 **確認画面が表示されます。[▲ / ▼]で"はい"を選び、[決定]を押す**

- キャンセルする場合は、"いいえ"を選び、**[決定]**を押してください。

5 **再度[決定]を押す**

6 **[セットアップ]を押し、設定を完了する**

ご注意
- "SDカードフォーマット"と"BD-ROMデータ消去（SDカード）"の実行中はSDカードを抜かないでください。SDカード上のデータを損傷することがあります。
- ブルーレイ・ディスクが本機に挿入されているときは、"SDカードフォーマット" と"BD-ROMデータ消去(SDカード)"を実行することができません。

故障かな?と思ったときは

この取扱説明書にそって操作しても正常に働かないときは、下記を参照しながら点検してください。
点検されても直らないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	原因と対応のしかた
電源が入らない	- 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。 - １度電源プラグをコンセントから抜き、５～10秒後に再びコンセントに差し込んでください。
映像が映らない、または音声がでない	- テレビの電源は入っていますか。 - 接続をしている機器やスピーカーの接続を確認してください。 - 本機を接続したテレビやAVアンプなどはHDCPに対応していますか。HDCPに対応していない機器を接続した場合は、正常に映像が出力されません。お手持ちのテレビやAVアンプなどについては取扱説明書をご覧ください。 - 映像または音声出力の選択は正しく行われていますか。
HDMIケーブルでつないでいるときに、映像が映らない、または音声がでない	- HDMIロゴ(HDMI®)の表示があるケーブルをお使いですか。 - 電源を入れたまま、HDMIケーブルをテレビと本機から抜き挿ししてみてください。
映像が映らない、または映像が乱れる BDビデオやDVDビデオの映像が、白黒画像になる	- 早送り/早戻しをした直後などに、多少画像が乱れることがありますが、故障ではありません。 - 本機は直接テレビに接続するか、AVアンプを経由してテレビに接続してください。VTR(ビデオテープレコーダー)経由で接続しないでください。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあり、そのようなディスクをVTRを通して再生するとコピーガードシステムにより、画面が乱れることがあります。 - 本機で対応しているディスクかお確かめください。 - 本機が対応していないディスクや、異なるリージョンコードのディスクが入っていませんか。(本機が対応しているリージョンコードは、BDビデオは「A」、DVDビデオは「２」または「ALL」です。)
音声がでない、または途切れる	- 音量を調節してください。 - スピーカーは正しく接続されていますか。 - HDMIケーブルの接続を確認してください。 - "音声出力設定"(☞ 45ページ)の設定をお確かめください。
再生中に一瞬画像が止まる	- ディスクにキズがあったり、指紋などで汚れている場合は、正常に再生できない場合があります。ディスクを清掃したり、キズのないディスクと取り替えて再生してください。 - ディスクに記録されたデータに問題がある可能性があります。
ディスクが再生できない	- ディスクを清掃してください。 - ディスクの印刷されている面を上にして正しく入れ直してください。 - ほかのディスクで再生できるかお確かめください。ほかのディスクで再生ができる場合、ディスクに不具合がある可能性があります。 - 視聴制限を解除するか、"視聴制限設定"(☞ 51ページ)を変更してください。 - 再生できないディスクが入っていませんか。
SDカードが読み込まれない	- 互換性のないカードが入っている恐れがあります。または、本機が対応していない記録フォーマットは認識しません。
ディスクを取り出しても通常の画面に戻らない	- 内部エラーが発生している可能性があります。 一度電源を切り、しばらく経ってから再び電源を入れてください。
リモコンで操作できない	- リモコン受光部に向けて操作していますか。 - リモコン受光部から離れたところから操作していませんか。 - 新しい乾電池に交換してください。 - ⊕ ⊖を確かめて正しく乾電池を入れてください。
ボタン操作ができない、または本機が反応しない	- 本体の**[電源]**を10秒以上長押しして本機をリセットするか、１度電源プラグをコンセントから抜き、５～10秒後に再びコンセントに差し込んでください。
再生中に操作ができない	- ディスクによってはその操作を禁止している場合があります。 ディスクの説明書をお読みください。
再生可能ディスクが読み込まれない	- 本機内部で結露が発生している可能性があります。 電源を「入」にしたまましばらく放置し、本体内部を乾かしてください。 - "再生できるディスクとファイル"(☞ 21ページ)に記載しているディスクかお確かめください。 - ディスクを清掃してください。

症状	原因と対応のしかた
アングルを変更できない	- 複数のアングルが記録されていないBDビデオまたはDVDビデオは、アングルを切り換えられません。 また、特定の場面のみ複数のアングルが記録されているものがあります。
タイトルを選択しても再生が始まらない	- 視聴制限によって再生を禁止している可能性があります。 "視聴制限設定"（☞ 51ページ）の設定を確認してください。
視聴制限で設定したパスワードを忘れた	- パスワード入力画面で**[4]**、**[7]**、**[3]**、**[7]**を入力すると、登録されていたパスワードが消去されます。 新たなパスワードを設定し直してください。
ネットワーク接続ができない	- LANケーブルの接続は正しくできていますか。 - モデムまたはルーターの電源は入っていますか。 - ネットワーク設定は正しくできていますか。 - モデムまたはルーターの接続は正しくできていますか。 - "BD-Live接続設定"（☞ 57ページ）を確認してください。
パソコンでインターネット接続中に本機がネットワークにつながらない	- お使いのインターネットサービスのご契約内容を確認し、複数の端末からの同時接続がプロバイダーで防がれていないか確認してください。
BD-Live機能が使えないまたはデータのダウンロードが正しく行われない	- 充分な空き容量（1 GB以上）があるSDカードは挿入されていますか。 - SDカードが正しく挿入されているか確認してください。
BD-Live機能付きのBDビデオ（BD-ROMプロファイル2.0）が再生できない	- 本機で初期化した1 GB以上の空き容量があるSDカードを挿入して再生してください。BD-Live対応ディスクには、再生時にメモリーを必要とするものがあります。

お知らせ

- 機能によっては一部の操作状態で利用できないことがありますが、これは故障ではありません。
  正しい操作方法については、本文の説明をよくお読みください。
- ディスクによっては使えない機能もあります。

用語解説

AAC（エーエーシー）

Advanced Audio Codingの略で、音声符号化の規格の一つです。AACは、CD並の音質データを約１/12にまで圧縮できます。また、5.1chのサラウンド音声や多言語放送を行うこともできます。

AVCHD

AVCHDは、ビデオカメラで撮影した高精細なハイビジョン映像を８cmDVD記録用ディスクまたはSDカード上に記録できる、新しいフォーマットの名称です。

AVCREC

AVCRECは、ハイビジョン映像をDVDに記録するための規格の名称です。

BD-J（Java）（ビーディージェイ）

BDビデオでは、Javaアプリケーションを利用した、よりインタラクティブな機能（ゲームなど）を楽しめるソフトがあります。

BD-Live

BD-Liveは、BDビデオ（BD-ROMプロファイル2.0）の新しい再生機能で、インターネットに接続し、追加映像や追加字幕のダウンロード、BD-Jによる通信対応ゲームなどのインタラクティブな機能を利用できます。

DNSサーバー

DNSサーバーは、インターネット上でドメインネームからIPアドレスを調べる機能を持ったサーバーです。

DTS（ディーティーエス）

Digital Theater Systemの略で、DTS社が開発した、デジタル音声システムです。DTS対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS-HD（ディーティーエスエイチディー）

ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された、従来のDTSをさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイ・ディスクでは、最大7.1チャンネルまで対応しています。

HDCP（エイチディーシーピー）

機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI（エイチディーエムアイ）

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、BD/DVDレコーダーやBD/DVDプレーヤーなどと接続できるAV用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を１本のケーブルで接続できます。

IPアドレス

IPアドレスは、ネットワークに接続された機器を識別する番号のことです。

JPEG

Joint Photographic Experts Groupの略で、静止画像データの圧縮方式の一つです。データサイズを小さくできるので、広く使われています。

LAN（Local Area Network）

一定範囲内（会社や学校、家庭内等）のネットワークのことです。

LPCM（リニアPCM）

PCMはPulse Code Modulationの略で、LPCMはデジタル音声をそのまま圧縮せずに記録する方式です。

MPEG（エムペグ）

Moving Picture Experts Groupの略で、動画音声圧縮方式の国際標準です。BDやDVDの映像は、この方式で記録されています。

アスペクト比

テレビ画面の縦横比率です。従来の標準テレビ画面の比率は4：3で、ワイドスクリーンテレビの画面の比率は16：9です。

インタラクティブオーディオ

BDビデオのタイトルなどに収録されている、操作しているときのクリック音などの音声です。

ゲートウェイアドレス

インターネットアクセスする際に使用する機器（ルーター等）のIPアドレスのことをいいます。

コピーガード

複製防止機能のことです。著作権保護のため、著作権者などによって複製を制限する信号が記録されているソフトや番組を録画することはできません。

サブネットマスク

ルーターにつなぐ機器のIPアドレスを絞りこむための数字です。

タイトル

BDビデオやDVDビデオに複数の映画が入っているときなど、各映画の題名（タイトル）などをいいます。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

チャプター

タイトルの中にある章をチャプターといいます。

トラック

音楽用CDの各曲ごとの区切りのことを「トラック」といいます。

ドルビーTrueHD

ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用されたロスレス符号化技術で、7.1チャンネルに対応しています。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズが開発した立体音響効果のことです。最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオシステムです。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして採用されているドルビーデジタルと同一のシステムです。

ドルビーデジタルプラス

ドルビーデジタルの拡張版で、ブルーレイ・ディスクのオプション音声として採用された高音質デジタル音声技術です。

ビットストリーム

圧縮されてデジタル信号に置き換えられた信号のことで、対応しているアンプなどによってそれぞれに合った信号に変換されます。

ファイナライズ

本機で録画したDVD-RW、DVD-Rを、ほかのDVDプレーヤーなどで再生できるようにする機能です。

ブルーレイ・ディスク

片面１層のディスクで25GBの容量を持つ、ハイビジョン映像の映画やゲームなどの記録に対応したディスクです。

プレイリスト

オリジナルの映像とは別に編集用に作成された映像のことで、オリジナルの映像のお好みのシーンを順番に再生することができます。

マルチボーダー（マルチセッション）

データの開始と終わりを表すデータ部分のことを「ボーダー（セッション）」と呼びます。マルチボーダーとは、1枚のディスクに追記などによって、データの開始と終わりを表すボーダー（セッション）が複数ある状態を言います。

リージョンコード

BDビデオやDVDビデオを再生できる国や地域を示すコードです。本機では、BDビデオのリージョンコードは「A」、DVDビデオのリージョンコードは「２」または「ALL」のビデオソフトを再生することができます。

言語コード一覧

言語名（順不同）	言語コード
アファル語	4747
アブバジア語	4748
アフリカーンス語	4752
アムハラ語	4759
アラビア語	4764
アッサム語	4765
アイマラ語	4771
アゼルバイジャン語	4772
バジキール語	4847
ベラルーシ語	4851
ブルガリア語※	4853
ビハーリー語	4854
ビスラマ語	4855
ベンガル語、バングラ語	4860
チベット語	4861
ブルトン語	4864
カタロニア語	4947
コルシカ語	4961
チェコ語※	4965
ウェールズ語	4971
デンマーク語※	5047
ドイツ語※	5051
ブータン語	5072
ギリシャ語※	5158
英語※	5160
エスペラント語	5161
スペイン語※	5165
エストニア語	5166
バスク語	5167
ペルシャ語	5247
フィンランド語※	5255
フィジー語	5256
フェロー語	5261
フランス語※	5264
フリジア語	5271
アイルランド語※	5347
スコットランドゲール語	5350
ガルシア語	5358
グアラニ語	5360
グジャラート語	5367
ハウサ語	5447
ヒンディ語	5455
クロアチア語	5464
ハンガリー語※	5467
アルメニア語	5471
国際語	5547
国際語	5551
イヌピック語	5557
インドネシア語	5560
アイスランド語※	5565
イタリア語※	5566
ヘブライ語	5569
日本語※	5647
イディッシュ語	5655
ジャワ語	5669
グルジア語	5747
カザフ語	5757
グリーンランド語	5758
カンボジア語	5759
カンナダ語	5760
韓国語※	5761
カシミール語	5765
クルド語	5767
キルギス語	5771
ラテン語	5847
リンガラ語	5860
ラオス語	5861
リトアニア語	5866
ラトビア語、レット語	5868
マダガスカル語	5953
マオリ語	5955
マケドニア語	5957
マラヤーラム語	5958
モンゴル語	5960
モルダビア語	5961
マラータ語	5964
マレー語	5965
マルタ語	5966
ミャンマー語	5971
ナウル語	6047
ネパール語	6051
オランダ語※	6058
ノルウェー語※	6061
プロバンス語	6149
アファン語、オロモ語	6159
オリヤー語	6164
パンジャブ語	6247
ポーランド語※	6258
パシュトー語	6265
ポルトガル語※	6266
ケチュア語	6367
ラエティ=ロマン語	6459
キルンディ語	6460
ルーマニア語※	6461
ロシア語※	6467
キニャルワンダ語	6469
サンスクリット語	6547
シンド語	6550
サンゴ語	6553
セルビアクロアチア語	6554
シンハラ語	6555
スロバキア語※	6557
スロベニア語	6558
サモア語	6559
ショナ語	6560
ソマリ語	6561
アルバニア語	6563
セルビア語	6564
シスワティ語	6565
セストゥ語	6566
スンダ語	6567
スウェーデン語※	6568
スワヒリ語	6569
タミール語	6647
テルグ語	6651
タジク語	6653
タイ語	6654
ティグリニャ語	6655
トゥルクメン語	6657
タガログ語	6658
セツワナ語	6660
トンガ語	6661
トルコ語※	6664
ツォンガ語	6665
タタール語	6666
トウィ語	6669
ウクライナ語	6757
ウルドゥ語	6764
ウズベク語	6772
ベトナム語	6855
ボラピュク語	6861
ウォロフ語	6961
コーサ語	7054
ヨルバ語	7161
中国語※	7254
ズール語	7267

お知らせ

- **[音声]**または**[字幕]**を押したとき、※の付いている言語はそれぞれの言語名が表示され、それ以外の言語は”---”で表示されます。

主な仕様

一般	
形名	SD-BD1K
信号方式	NTSC方式
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	20W
待機時消費電力	0.5W
許容動作温度	5℃～35℃
許容湿度	80%最大
外形寸法	435（幅）×51（高さ）×218（奥行）mm
質量	約2.3kg（梱包含まず）

端子部		
映像出力	Y出力レベル：	1.0Vp-p（75Ω）
	出力端子：	ピンジャック1系統
コンポーネント映像出力	Y出力レベル：	1.0Vp-p（75Ω）
	PB/CB、PR/CR出力レベル：	0.7Vp-p（75Ω）
	出力端子：	ピンジャック1系統
HDMI出力	Type A端子（19ピン）1系統	
音声出力	出力レベル：	2.0Vrms（1.0kΩ）
	出力端子：	ピンジャック1系統
光デジタル音声出力	光コネクター角型光ジャック1系統	
同軸デジタル音声出力	ピンジャック1系統 0.5Vp-p（75Ω）	
LAN端子	1系統（10BASE-T/100BASE-TX）	

お知らせ

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機で使われるソフトウェアのライセンス情報

本内容はライセンス情報のため、操作には関係ありません。

The software pre-installed in this product consists of multiple, independent software components. Each software component is copyrighted by a third party.
This product uses software components that are distributed as freeware under a third-party end-user license agreement or copyright notice (hereinafter referred to as a "EULA").

TOSHIBA provides a warranty for this product you have purchased under conditions set forth by TOSHIBA. However, some of the software components distributed under an EULA are made available for use by the user on the assumption that they are not copyrighted or warranted by a third party. These software components are licensed to the user free of charge and therefore not covered by any warranty within the scope of the applicable laws. These software components are not subject to any copyrights or other third-party rights and are provided in "as is" condition without any warranty, whether express or implied. "Warranty" here includes, but not limited to, an implied warranty for marketability or fitness for specific uses. All risks associated with the quality or performance of these software components are assumed by the user. TOSHIBA shall not be liable whatsoever for any cost of repair or correction or other incidental expense incurred in connection with a defect found in any of these software components. Unless specified under the applicable laws or in a written agreement, a party who changes or redistributes the software with consent from the copyright holders or based on the aforementioned licenses shall not be held liable whatsoever for any loss arising from the use of or inability to use such software components. The same applies even when the copyright holders or relevant third parties have been informed of the possibility of such loss. "Loss" here includes normal, special, incidental and indirect loss (including, but not limited to, the loss of data or its accuracy; loss incurred by the user or any third party; and interface incompatibility with other software). Please read each EULA for details on the use conditions and items that must be observed regarding these software components.

The table below lists the software components pre-installed in this product, which are subject to EULAs. The user should read the applicable EULAs carefully before using these software components. The EULAs are exhibited in their original text (English) as exactly written by the respective parties.

Program name	EULA
linux	Exhibit A
module-init-tools	Exhibit A
mount	Exhibit A
nettools	Exhibit A
sash	Exhibit A

Program name	EULA
directfb	Exhibit B
glibc	Exhibit B
Free Type	Exhibit C
LibJPEG	Exhibit C
Open SSL	Exhibit C

• Reverse engineering, disassembling, decompiling, dismantling, or otherwise attempting to analyze or modify the software included in this product is prohibited.

Exhibit A

GPL

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS
How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'.
This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

Exhibit B

LGPL

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE
TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.

   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

   (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

   In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

   This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

   However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

   When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

   If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

   Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

   You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

   a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

   b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

   c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

   d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

   e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

   For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

   It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

   b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10.Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11.If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12.If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13.The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14.If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15.BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16.IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

Exhibit C

Free Type

The FreeType Project LICENSE

2006-Jan-27

Copyright 1996-2002, 2006 by
David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg

Introduction

The FreeType Project is distributed in several archive packages; some of them may contain, in addition to the FreeType font engine, various tools and contributions which rely on, or relate to, the FreeType Project.

This license applies to all files found in such packages, and which do not fall under their own explicit license. The license affects thus the FreeType font engine, the test programs, documentation and makefiles, at the very least.

This license was inspired by the BSD, Artistic, and IJG (Independent JPEG Group) licenses, which all encourage inclusion and use of free software in commercial and freeware products alike. As a consequence, its main points are that:

- We don't promise that this software works. However, we will be interested in any kind of bug reports. (`as is' distribution)
- You can use this software for whatever you want, in parts or full form, without having to pay us. (`royalty-free' usage)
- You may not pretend that you wrote this software. If you use it, or only parts of it, in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you have used the FreeType code. (`credits)

We specifically permit and encourage the inclusion of this software, with or without modifications, in commercial products. We disclaim all warranties covering The FreeType Project and assume no liability related to The FreeType Project.

Finally, many people asked us for a preferred form for a credit/disclaimer to use in compliance with this license. We thus encourage you to use the following text:

"""
Portions of this software are copyright© <year> The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.
"""

Please replace <year> with the value from the FreeType version you actually use.

Legal Terms

0. Definitions

Throughout this license, the terms `package', `FreeType Project', and `FreeType archive' refer to the set of files originally distributed by the authors (David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg) as the `FreeType Project', be they named as alpha, beta or final release.

`You' refers to the licensee, or person using the project, where `using' is a generic term including compiling the project's source code as well as linking it to form a `program' or `executable'. This program is referred to as `a program using the FreeType engine'.

This license applies to all files distributed in the original FreeType Project, including all source code, binaries and documentation, unless otherwise stated in the file in its original, unmodified form as distributed in the original archive. If you are unsure whether or not a particular file is covered by this license, you must contact us to verify this.

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

1. No Warranty

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED `AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

2. Redistribution

This license grants a worldwide, royalty-free, perpetual and irrevocable right and license to use, execute, perform, compile, display, copy, create derivative works of, distribute and sublicense the FreeType Project (in both source and object code forms) and derivative works thereof for any purpose; and to authorize others to exercise some or all of the rights granted herein, subject to the following conditions:

- Redistribution of source code must retain this license file (`FTL.TXT) unaltered; any additions, deletions or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation. The copyright notices of the unaltered, original files must be preserved in all copies of source files.
- Redistribution in binary form must provide a disclaimer that states that the software is based in part of the work of the FreeType Team, in the distribution documentation. We also encourage you to put an URL to the FreeType web page in your documentation, though this isn't mandatory.

These conditions apply to any software derived from or based on the FreeType Project, not just the unmodified files. If you use our work, you must acknowledge us. However, no fee need be paid to us.

3. Advertising

Neither the FreeType authors and contributors nor you shall use the name of the other for commercial, advertising, or promotional purposes without specific prior written permission.

We suggest, but do not require, that you use one or more of the following phrases to refer to this software in your document ation or advertising materials: `FreeType Project', `FreeType Engine', `FreeType library', or `FreeType Distribution'.

As you have not signed this license, you are not required to accept it. However, as the FreeType Project is copyrighted material, only this license, or another one contracted with the authors, grants you the right to use, distribute, and modify it. Therefore, by using, distributing, or modifying the FreeType Project, you indicate that you understand and accept all the terms of this license.

4. Contacts

There are two mailing lists related to FreeType:

- freetype@nongnu.org
  Discusses general use and applications of FreeType, as well as future and wanted additions to the library and distribution. If you are looking for support, start in this list if you haven't found anything to help you in the documentation.
- freetype-devel@nongnu.org
  Discusses bugs, as well as engine internals, design issues, specific licenses, porting, etc.

Our home page can be found at

http://www.freetype.org

LibJPEG
In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:

The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user, assume the entire risk as to its quality and accuracy.

This software is copyright (C) 1991-1998, Thomas G. Lane.
All Rights Reserved except as specified below.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:
(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

Open SSL
OpenSSL License

/*

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

*/

Original SSLeay License

/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
   The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
   "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

*/

保障とアフターサービス

必ずお読みください。

保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みの後、たいせつに保管してください。

保　証　期　間

お買い上げ日から１年間です。ただし、業務用にご使用の場合、あるいは特殊使用の場合は、保証期間内でも「有料修理」とさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

補修用性能部品について

- 当社は、ブルーレイディスクプレーヤーの補修用性能部品を製造打ち切り後、最低８年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理のために取り外した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～持込修理

60～61ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容		
品名	ブルーレイディスクプレーヤー	
形名	**SD-BD1K**	
お買い上げ日	**年　　月　　日**	
故障の状況	できるだけ具体的に	
ご住所		
お名前		
電話番号		
便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　　）　－

お客様へ…おぼえのため、お買い上げ店名を記入すると便利です。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み	
技術料	故障した商品を正常に修復するための料金です。
＋	
部品代	修理に使用した部品代金です。

商品の修理サービスはお買い上げの販売店がいたします。

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼はお買い上げの販売店にお申し付けください。

新製品などの商品選び、本機に関する取扱い方法などのご相談や販売店に修理のご相談ができない場合

『東芝DVDインフォメーションセンター』　[受付時間]　365日　9：00～20：00

［一般回線からのご利用は］ フリーダイヤル **0120-96-3755**
（フリーダイヤルは携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません）

［携帯電話からのご利用は］ ナビダイヤル **0570-00-3755（通話料：有料）**
（PHS・一部のIP電話などでは、ご利用になれない場合がございます）

[IP電話などからフリーダイヤルサービスをご利用いただけない場合は]　03-6830-1855(通話料：有料)
[FAXからのご利用は]　03-3258-0470(有料)

「東芝DVDインフォメーションセンター」は株式会社東芝ビジュアルプロダクツ社が運営しております。
お客様からご提供いただいた個人情報は、ご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
東芝グループ会社もしくは協力会社より対応させていただくことが適切と判断される場合に、お客様の個人情報を提供することがあります。

株式会社 東芝
ビジュアルプロダクツ社
〒105-8001　東京都港区芝浦１-１-１
＊所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

Printed in China
E5PJ4JD
1VMN28777 ★★★★